

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ こどもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

県生涯学習課

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 1,699千円

〔事業目的及び概要〕

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図り、市町村の社会教育主事等の資質・能力の向上を図るため、首長部局、企業、NPO法人、地域づくり団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決【2地区 主管：西北教育事務所・上北教育事務所】
社会教育主事等が中心となり、首長部局、NPO法人、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。
- ア 西北地区(鶴田町)
- ＜地域課題解決スタートアップ研修会＞
 - 期日：7/3(水) ○会場：鶴田町国際交流会館 ○参加者数：11名
 - 内容：事業説明、ワークショップ形式による協議
 - ＜第1回実行委員会＞
 - 期日：7/25(木) ○会場：鶴田町国際交流会館 ○参加者数：8名
 - 内容：委員長、副委員長、会計、監査の決定、活動内容・計画についての話し合い、実行委員会名義の通帳の準備及び会則作成等
 - ＜第2回実行委員会＞
 - 期日：11/28(木) ○会場：鶴田町国際交流会館 ○参加者数：10名
 - 内容：具体的な活動内容についての話し合い、具体的な活動計画（実践日を含む）の決定、その他について
 - ＜第3回実行委員会＞
 - 期日：12/13(金) ○会場：鶴田町国際交流会館 ○参加者数：8名
 - 内容：事業実施について（当日のスケジュール確認、準備物等）、試作会の日程（15日）について、今後の活動予定について(地域課題解決フォローアップ研修会及び会計監査等)
 - ＜事業の実践＞
 - イベント「親子でクリスマスケーキ作り」の開催
 - 期日：12/22(日) ○会場：鶴田町公民館 ○参加者数：150名
 - 内容：就学前の年中児から小学6年生を対象として、レクリエーションやケーキ用箱のデコレーション、ケーキ作りを親子で協力しながら、1部（午前）31組、2部（午後）23組の計54組が、自分だけのクリスマスケーキを作ることができた。また、下山学園高校の高校生ボランティア26名もイベントに参加し、会場は、こどもも保護者も楽しい時間を過ごすことができ、イベントは大盛況であった。
 - ＜地域課題解決フォローアップ研修会＞
 - 期日：2/12(水) ○会場：鶴田町役場 ○参加者数：24名
 - 内容：西北地区実行委員会による実践発表及び質疑応答、意見交換を行った。
- イ 上北地区(十和田市)
- ＜地域課題解決スタートアップ研修会＞
 - 期日：6/10(月) ○会場：十和田市民図書館 ○参加者数18名
 - 内容：事業説明、ワークショップ形式による協議

<第1回実行委員会・交流会>

○期日：7/10(水) ○会場：十和田市民図書館 ○参加者数8名

○内容：実行委員長、副委員長の決定、活動内容及び計画について

<第2回実行委員会・交流会>

○期日：9/11(水) ○会場：十和田市民図書館 ○参加者数8名

○内容：今後の見学計画、認知症研修等について、情報交換

<第3回実行委員会・交流会>

○期日：1/29(水) ○会場：十和田市民図書館 ○参加者数10名

○内容：これまでの活動の振り返り、フォローアップ研修会の発表内容について

<事業の実践(研修会1)>

「似顔絵とデザイン文字にチャレンジしよう」の開催

○期日：8/30(金) ○会場：タワーレ ○参加者数：39名

○内容：絵本の紹介ポップを効果的に作成するための、似顔絵の描き方とデザイン文字の書き方講座(講師：鈴木信成氏)を行った。

<事業の実践(研修会2)>

「認知症の絵本の読み聞かせ会」の開催

○期日：10/15(火) ○会場：医療法人幸仁会高松病院 ○参加者数：17名

○内容：専門医から認知症という病気そのものの理解促進のための研修会を実施後、認知症を題材とした絵本について学ぶ(講師：高松杏子医師)研修会を行った。

<事業の実践(研修会3)>

「図書館の効果的なレイアウト研修会」の開催 「県立図書館アシスト事業」の活用

○期日：11/15(金) ○会場：十和田市立ちとせ小学校 ○参加者数：14名

○内容：県立図書館アシストプラス事業を活用し、効果的な図書館レイアウトや装飾について学ぶ(講師：県立図書館職員)研修会を行った。

<事業の実践(研修会4)>

「教科書センター見学会」の開催

○期日：2/12(水) ○会場：十和田市立三本木小学校 ○参加者数：9名

○内容：教科書センターにて、複数社から発行されている国語の教科書を閲覧し、掲載されている教科書の内容等について比較するとともに、購入したテキストをもとにレイアウトや季節の装飾、ブックトークについて学ぶ(講師：木村明美氏)研修会を行った。

<事業の実践1>

「読み聞かせと図書室見学」の開催

○期日：9/18(水) ○会場：十和田市立南小学校 ○参加者数：8名

<事業の実践2>

「アニメーション授業と図書室見学」の開催

○期日：9/19(木) ○会場：十和田市立西小学校 ○参加者数：7名

<事業の実践3>

「読み聞かせおたのしみ会と図書室見学」の開催

○期日：11/20(水) ○会場：十和田市立北園小学校 ○参加者数：6名

<事業の実践4>

「読み聞かせクリスマス会と図書室見学」の開催

○期日：11/27(水) ○会場：十和田市立三本木小学校 ○参加者数：8名

<事業の実践5>

「読み聞かせと図書室見学」の開催

○期日：12/5(木) ○会場：十和田市立東小学校 ○参加者数：3名

<事業の実践6>

「読み聞かせクリスマス会と図書室見学」の開催

○期日：12/11(水) ○会場：十和田市立南小学校 ○参加者数：11名

<事業の実践7>

「読み聞かせイベント見学」の開催

○期日：12/13(金) ○会場：十和田市立東小学校 ○参加者数：3名

<事業の実践8>

「読み聞かせクリスマス会と図書室見学」の開催

○期日：12/20(金) ○会場：十和田市立藤坂小学校 ○参加者数：3名

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○期日：2/19(水) ○会場：十和田市民図書館 ○参加者数：25名

○内容：上北地区実行委員会「図書でつながる会」による実践発表及び質疑・情報交換を行った。

[成果]

- ・これまでのこどもだけで作るケーキ作りから、親子で作るクリスマスケーキ作りとしたことで、親子の触れ合いの場となり、家庭教育支援につながる事業となった。(西北地区)
- ・他校で実践されている読み聞かせを見学することで、図書館ボランティア同士のネットワークが自然に広がり、情報交換する中でいろいろな気づきを得ることができた。(上北地区)

[課題]

- ・事業の実践が1回のみ企画であったため、対象となる親子が早期希望者に限られてしまったことが残念であった。親子の絆を深める機会を必要としている家庭も多いため、数回にわたる親子事業を企画していく必要性を感じた。(西北地区)
- ・今後、「図書でつながる会」で構築されたネットワークを生かして、新たな人財の発掘・育成につなげる持続的な取組や支援を続けることが重要である。(上北地区)
- ・多様な地域人財及び他部局や他市町村と連携しながら、地域活性化や地域課題等を解決するための事業を企画・実践することで、社会教育主事等の資質向上を図る取組を継続して実施する必要がある。

(2) キャリア教育の推進【6地区 青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】

ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

学校、企業、教育支援プラットフォーム、地域学校協働本部等の関係者同士がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域の未来を担う人財像を共有するため、各地区において会議を開催し、関係者同士による意見・情報交換を行った。

<東青地区>

期日	場所	内容
4/22(月)	青森市立浜田小学校	参加企業10社、参加者13名
7/11(木)	青森市立大野小学校	参加企業6社、参加者10名

<西北地区>

○期日：10/29(火)

○場所：五所川原市立金木中学校

○内容：職業講話終了後、企業の取り組み、学校から期待すること、実行委員会の取り組み方、職業講話におけるこどもたちへの関わり方等について、企業・学校・実行委員会の出席メンバーで意見交換を行った。

<中南地区>

○期日：8/23(金)

○場所：弘前パークホテル

○内容：地区内高等学校卒業予定者の地元就労について、情報交換を通して、早期から健全な職業観・勤労観の育成についての取組を協議し、地元就労促進に役立てる機会とすることを目的として「職場環境新時代 ～選ばれる会社となるために～」をテーマに講演会を実施した。

○講師：株式会社小林紙工 代表取締役 久保 良太 氏

<上北地区>

○期日：2/25(火)

○場所：十和田市商工会館

○内容：十和田地区雇用対策協議会と共催で開催し、「若者の地元定着・離職率の改善の方策」をテーマに講演とワークショップを実施した。

○講師：特定非営利活動法人プラットフォームあおもり 理事長 米田 大吉 氏

<下北地区>

○期日：7/8(月)

○場所：むつグランドホテル

○内容：むつ商工会議所と連携して、「むつ下北地区高卒者雇用対策協議会」の第2部として実施し、「若者が地元で定着し活躍するために、地域のオトナがするべきこと」をテーマに講演会を実施した。

○講師：特定非営利活動法人プラットフォームあおもり 理事長 米田 大吉 氏

<三八地区>

○期日：7/22(月)

○場所：八戸市立長者中学校

○内容：総合社会教育センター「学校と地域・企業等をつなぐキャリア教育研修会」の一部として開催し、企業、学校関係者、行政関係者等との話し合いをとおして、ネットワークの構築を図った。

○講師：認定NPO法人ハーベスト 代表理事 山崎 賢治 氏

イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録及び登録企業の周知

各実行委員会とも関係機関と連携して情報収集しながら、新たに「我が社は学校教育サポーター」に登録する企業の新規開拓を行った。また、「我が社は学校教育サポーター」に登録されている企業について、さらなる活用を促進するために、登録企業の周知を学校等に対して行い、企業による教育支援活動の一層の充実を図った。

ウ キャリア教育推進のためのコーディネート業務

学校からの要望に応じて、地元企業・NPO等が実施している教育支援活動(出前授業・インターンシップ・体験活動等)に係るコーディネートを行った。

(ア)東青地区

期日	学校名	内容
4/22(月)	青森市立浜田小学校	職業講話
7/11(木)	青森市立大野小学校	職業講話
11/20(水)	青森市立浪打中学校	職業講話
11/20(水)	青森市立北小学校	職業講話
12/5(木)	青森市立大野小学校	職業講話

(イ)西北地区

期日	学校名	内容
10/29(火)	五所川原市立金木中学校	職業講話

(ウ)中南地区

期日	学校名	内容
7/2(火)~7/3(水)	大鰐町立大鰐中学校	職場体験
7/3(水)~7/4(木)	弘前市立北辰中学校	職場体験
10/3(木)	弘前市立南中学校	職場体験
10/23(水)~10/24(木)	弘前市立第三中学校	職場体験
2/6(木)	県立尾上総合高等学校	職業講話

(エ)上北地区

期日	学校名	内容
7/11(木)	県立七戸高等学校	ビジネスマナー講習会
10/16(水)	六戸町立六戸小学校	職業講話
11/6(水)	三沢市立第一中学校	職業講話
11/8(金)	十和田市立西小学校	職業講話
11/12(火)	おいらせ町立甲洋小学校	職業講話
12/4(水)	七戸町立天間林小学校	職業講話
12/13(金)	七戸町立城南小学校	職業講話
1/31(金)	十和田市立北園小学校	職業講話
2/7(金)	十和田市立高清水小学校	職業講話
2/13(木)	十和田市立藤坂小学校	職業講話

(オ)下北地区

期日	学校名	内容
7/12(金)	むつ市立第一田名部小学校	職業講話
9/12(木)	大間町立大間小学校	職業講話
11/14(木)	東通村立東通小学校	職業講話
11/19(火)	むつ市立大平小学校	職業講話
11/28(木)	むつ市立大畑小学校	職業講話
12/16(月)	むつ市立奥内小学校	職業講話

(カ)三八地区

期日	学校名	内容
10/28(月), 11/12(火), 12/13(金), 1/29(水), 2/3(月), 2/13(木)	八戸市立小中野中学校 (全6回)	職業講話
11/1(金)	八戸市立青潮小学校	卒業生による講演会

【成果】

- ・地元企業と学校のネットワーク会議では、中南・上北・下北地区においては、青森県高等学校長協会及び青森県若年就職支援センター(ジョブカフェあおもり)主催の会議と併催する形で実施し、教員の研修等の機会と同日・同会場で開催することにより、多くの教員に対して本事業の取組を理解してもらう機会とすることができた。
- ・学校からの要望に応じて、出前授業や職場体験等の教育支援活動をコーディネートし、学校側からのアンケートでは高い評価を得ることができた。

【課題】

- ・他地区の取組への積極的な参加を促す等、より効果的な事業実施に向けて各地区の連携・協働体制を一層強化する必要がある。
- ・各地区ともに関心のある企業の多くが、すでに「我が社は学校教育サポーター」登録していることもあり、新規登録数が伸び悩んでいる。

こどもの読書活動推進事業 3,574千円

【事業目的及び概要】

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をするこどもたちを育成するため、こどもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

【事業内容】

(1) あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集(紹介文集)を32,000部、優秀作品周知ポスターを360部作成し、中学校、高等学校(特別支援学校中学部及び高等部を含む)、図書館等に配布した。

○募集期間：7/1(月)～9/12(木)

○応募数：4,158点(中学生の部：31校1,089点、高校生の部：25校3,069点)

○優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	青森市立新城中学校 2年 丹代 さくら 『52 ヘルツのクジラたち』(町田 そのこ/著)
優 秀 賞	八戸市立第二中学校 3年 田村 未奈 『かがみの孤城』(辻村 深月/著) 黒石市立黒石中学校 3年 白戸 アリア 『嫌われる勇気』(岸見 一郎 古賀 史健/著) 八戸市立下長中学校 2年 小林 朔瑠 『もしも徳川家康が総理大臣になったら』(眞邊 明人/著) 南部町立福地中学校 1年 金浜 蒼陽

	『失敗図鑑 すごい人ほどダメだった!』(大野 正人/著) 弘前大学教育学部附属中学校 2年 日ヶ久保 乃愛 『大丈夫じゃないのに大丈夫なふりをした』(クルベウ/著 藤田 麗子/訳)
--	--

< 高校生の部 >

最優秀賞	県立八戸商業高等学校 2年 小坂 羽純 『そして、バトンは渡された』(瀬尾 まいこ/著)
優秀賞	県立八戸商業高等学校 3年 八重垣 樹李 『明日は明日の日は昇るけど、今夜はどうしよう』(ヨンジョン/著 吉川 南/訳) 県立八戸商業高等学校 3年 川畑 悠 『夜明けのすべて』(瀬尾 まいこ/著) 県立五所川原工科高等学校 2年 林 晏未 『かがみの孤城』(辻村 深月/著) 県立八戸商業高等学校 1年 庭田 璃央 『花咲舞が黙ってない』(池井戸 潤/著) 県立弘前実業高等学校 2年 葛西 莉央 『幽落町おばけ駄菓子屋』(蒼月 海里/著)

(2) こどもの読書活動推進大会

広く県民がこどもの自主的な読書活動の意義や重要性について理解と関心を深め、家庭・地域・学校を通じた社会全体でこどもの読書活動を推進する機運の醸成を図るため、こどもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：12/1(日) 13:00~16:00

○場所：つがる市生涯学習交流センター「松の館」

○参加者数：125名

○内容

ア 表彰式

令和6年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

- ・中学生の部及び高校生の部の最優秀賞及び優秀賞受賞者への表彰
- ・最優秀賞及び優秀賞受賞者による本の紹介

イ 講演

演題：『読書で出会った、わたしの友達』

講師：小説家 町田 そのこ 進行：フリーアナウンサー 境 香織

(3) 青森県こども読書活動推進計画

青森県こども読書活動推進協議会を設置し、令和7年2月に青森県こども読書活動推進計画（第五次）を策定した。計画は500部作成し、市町村教育委員会や関係機関等に配布した。

○青森県こども読書活動推進協議会の開催

- ・推進協議会を4回開催（7/24、9/2、10/16、1/17）
- ・専門委員会を2回開催（8/5、12/25~1/7（書面審議））

○あおもり県民政策提案（パブリック・コメント）の実施

○ホームページに掲載

なお、こども読書活動推進計画の未策定・未改定市町村への働きかけについては、文部科学省による「市町村における子供読書活動推進計画の策定状況に関する調査」が実施されず、また、県第五次計画の策定年度であったことから見送ることとした。

[成果]

- ・「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」は、中学生の部・高校生の部ともに多数の応募があった。学校の担当教師からは「生徒たちの関心が高い。紹介文の文字数が取り組みやすく丁度よい。」「同年代から本を薦められることで、自分も読んでみようという生徒が多くいた。」等、好意的な感想をいただいている。
- ・こどもの読書活動推進大会では、小説家による講演の他に「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』コンクールの表彰式と最優秀賞及び優秀賞を受賞した生徒による本の紹介を行い、県民に対し本事業の一環である取組を周知した。
- ・啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」については第7版を発行し、22の団体等に合計4,020冊

の提供を行い市町村ブックスタート事業等で活用していただいた。

【課題】

- ・「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」優秀作品集及び啓発小冊子「絵本でゆたかな親子の時間」の内容については好評であるため、これらをこどもたちの読書意欲の向上に活用していかなければならない。
- ・こどもの読書活動推進大会において周知ポスター配布時期を早める等、参加者を増やすためのより一層の工夫が必要である。
- ・市町村におけるこども読書活動推進計画の策定及び改定に係る情報提供及び意見交換については、文部科学省による「市町村における子供読書活動推進計画の策定状況に関する調査」が今後は隔年実施が予想されることから、より丁寧に行わなければならない。
- ・今年度策定した「青森県こども読書活動推進計画（第五次）」で示している基本方針（不読率の低減等）に対応した取組を進めていく必要がある。

いじめ防止キャンペーン推進事業 6,332 千円

【事業目的及び概要】

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀作品を広告動画を通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

【事業内容】

(1) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞 6 作品、審査員特別賞 4 作品を選定した。

○募集期間：6/3(月)～8/30(金)

○応募数：9,280 作品(小学校 5,464 作品、中学校 2,754 作品、高等学校 991 作品、特別支援学校 71 作品)

○受賞作品

優秀賞	無言でも 寄り添い君を 救いたい	青森市立新城中学校 1年 木村 桜花
	気がついた? いじめと同じ 「無関心」	つがる市立瑞穂小学校 6年 工藤 瑚子
	「助けて」と 言えないあの子に 寄りそって	県立弘前実業高等学校 2年 葛西 莉央
	ありがとう いまのことば わすれない	六ヶ所村立千歳平小学校 4年 佐藤 ほのか
	すこしまて いってはいけない ことばかも	むつ市立奥内小学校 1年 野口 妃
	「助けてよ」 その一言に 気づきたい	階上町立道仏中学校 2年 村田 康汰郎
審査員特別賞	「それ、やめよう。」いうのこわいけど、わたしは、ともだちまもりたい。ちゃんと見て 相手の心の 信号を	弘前市立岩木小学校 1年 木立 一花 中泊町立中里中学校 1年 外崎 滯
	大丈夫 震えた声は SOS	中泊町立中里中学校 3年 加藤 彩姫
	見てみぬふり やめて 心の目を向けよう	県立八戸第一養護学校高等部 1年 佐々木 結愛

(2) Web 広告配信

ア 令和 5 年度制作「いじめ防止キャンペーン動画」を YouTube、Instagram、TikTok にて Web 広告配信 (5/1～5/15、7/16～8/31、12/16～1/31)

イ 令和 6 年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用した動画を制作し、YouTube、Instagram、

TikTokにてWeb広告配信(3/1~3/15)

[成果]

- ・いじめ防止標語コンクールでは、学校から多数の応募があり、また各学校において本コンクールを教育活動等にも活用していることから、学校におけるいじめ防止に向けた意識啓発につながる取組となっている。
- ・Web広告配信では、各媒体の利用者層に応じて配信し、より効果的にいじめ防止に向けた情報発信を行うことができた。

[課題]

- ・本事業において制作した動画の活用に関して、さらに周知していく必要がある。

特別支援学校における障がいに関する理解促進事業 1,430千円

[事業目的及び概要]

県立特別支援学校において、障がいのある児童・生徒を有する父母等が、こどもの健やかな成長のために、障がい児(者)の心理や行動について理解を深めたり、家庭における教育や卒業後の就労などについて必要な知識を習得したりするほか、県民を対象に特別支援学校の有する専門性を生かした公開講座を実施し、障がいに関する理解促進を図るための取組を行う。

[事業内容及び結果]

(1) 理解促進のための研修会

学校名	回数	時間	参加者数	主な内容
県立青森第一養護学校	4	10	38名	パン作り体験、事業所見学、ピラティス&ヨガ体験
県立青森第二養護学校	4	9	37名	談話会、ピザ作り体験、防災教室、こぎん刺し教室
県立青森若葉養護学校	3	6	46名	事業所見学、体験活動「シナプソロジーでフレッシュ」「安心安全!美味しいCOFFEEでほっとタイム」
県立青森第一高等養護学校	2	4	63名	福祉に関する勉強会「障害福祉サービスの利用等について」、保護者交流「めいせい祭を楽しもう」
県立青森第二高等養護学校	4	9	56名	花植え、茶話会、着付け・抹茶体験、二高養祭の準備、苔ポット作り
県立盲学校	6	16	17名	地域の清掃活動参加、クッキー作り、進路指導講話、果物収穫体験、学校祭参加、点字ブロック理解啓発活動
県立浪岡養護学校	7	17	112名	学習会「Let's enjoy music!2」「こぎん刺しで、素敵な小物を作ろう」、浪養祭「PTA展示」
県立弘前第一養護学校	2	6	59名	PTA施設見学会(卒業後の進路先見学)、お菓子作り
県立弘前第二養護学校	7	19	181名	運動会鑑賞、親子レクリエーション、保護者研修会、笹餅作り体験、学習発表会鑑賞、福祉施設見学、進路講演会
県立弘前豊学校	7	15	78名	進路講話、地域交流、親子レクリエーション、プリザーブドフラワー作り、笹餅作り体験、職場・施設見学
県立八戸第一養護学校	3	9	10名	合同研修会「ライフステージから女性の健康を考える」「子供の成長と性に関する支援」、就労支援施設見学
県立八戸第二養護学校	3	9	116名	防災対策や障がい児をもつ保護者としての備えについての学習会、学校に寄付する雑巾作り、合同研修会「子供の成長と性に関する支援」
県立八戸盲学校	5	10	67名	保護者交流会(学校行事への協力)、フライングディスク、体験学習「盲導犬と触れ合おう」、合同研修会「ライフステージから女性の健康を考える」
県立八戸豊学校	5	6	53名	盲豊合同PTA奉仕作業(運動会装飾、パイプ椅子拭き、扇風機清掃)、フライパンピザ作り

県立森田養護学校	3	12	61名	近隣地域公共施設における体験学習(津軽鉄道乗車体験、手打ちそばの体験、斜陽館・三味線会館の見学)、笹餅作り体験、森養祭に向けての活動
県立黒石養護学校	3	7	49名	黒石よされ講習会、黒養祭準備、コサージュ作り
県立七戸養護学校	4	11	30名	福祉施設見学会、県地区P連研修会「リハビリは希望の光、笑いは健康のもと」、県知P連研修会「リハビリは希望の光、笑いは健康のもと」、合同研修会「子供の成長と性に関する支援」、そば作り講習会
県立むつ養護学校	4	9	116名	グラウンドの石拾い、園芸教室、親子レクリエーション、父母学習会(障がい者の福祉に関する学習会)
県立八戸高等支援学校	3	8	85名	進路学習会「一般就労・就労継続支援A型事業所への就労について」「株式会社ハチカンでの障がい者雇用について」「就労継続支援B型事業所・生活介護事業所について」
合計	延べ回数 79回 延べ時間 192時間 参加者数合計 1,274名			

(2) 公開講座

学校名	期間	日数 (回数)	内 容	参加者数
県立青森聾学校	6~9月	7日 (7回)	手話講座	75名

[成果]

- ・アンケートをもとにニーズを把握した上で計画を立て、興味関心の高い内容の企画を実施することができた。
- ・行政機関や障害福祉サービス事業所等、学校外の多様な主体と連携して、事業を実施することができた。

[課題]

- ・参加者が固定されている傾向があり、新規の参加者が少ないという状況が見られる。次年度以降、児童・生徒にも参加を呼び掛ける等、新規の参加者を増やす工夫が期待される。

地域と学校とのパートナーシップ強化事業 [重点] 3,677千円

[事業目的及び概要]

これまでの取組を通じて形成されてきた人財や地域の活動団体等とのつながりを活かし、学校と地域のネットワークをより着実なものとして、地域学校協働活動の推進を図ることを目的として、学校と地域が互いの理解を深め、連携・協働を図りやすい環境の整備や、地域学校協働活動推進員等によるコーディネート機能の強化を促進し、地域全体でこどもたちの成長を支えていく体制を整備する事業である。

[事業内容]

(1) 地域と学校の交流会

ア 地域活動者・企業が学ぶ場と情報交換会

「学校が望む地域との連携・協働」をテーマに、地域学校協働活動の先進事例等について学び、それぞれの取組などを情報交換して、学校との連携の在り方を模索した。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	7/16(火)	県総合社会教育センター	18名
上北	7/17(水)	十和田市東コミュニティセンター	31名

○対象：地域活動者、企業関係者、町内会関係者(地域住民)等

○講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき

イ 学校と地域のネットワークづくり

学校関係者と、学校への協力を申し出ている企業や学校との連携を希望する地域活動者、町内会関係者等が一堂に会して交流を深め、互いの理解を促進した。(ワークショップ等で交流を図った。)

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	9/26(木)	県総合社会教育センター	33名
上北	9/27(金)	十和田市東コミュニティセンター	13名

○対象：地域活動者、企業関係者、小・中・県立学校教職員、地域学校協働活動推進員、市町村教育委員会職員、町内会関係者(地域住民)等

○講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき

(2) 市町村地域学校協働活動支援

ア 地域学校協働活動研修

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進についての理解を深めるため、教育委員会担当者や教職員等を対象とし、文科省の動向、県内外の先進事例等を学ぶ研修会を開催した。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	8/ 8(木)	県総合社会教育センター	57名(15名)
西北	8/19(月)	つがる市生涯学習交流センター「松の館」	45名(2名)
中南	7/ 4(木)	弘前市立中央公民館相馬館長慶閣	54名(16名)
上北	8/ 9(金)	東北町コミュニティセンター未来館	56名(5名)
下北	7/ 5(金)	むつ来さまい館	19名(1名)
三八	9/ 3(火)	南部町総合保健福祉センターゆとりあ	59名(13名)

※参加者数の()は、オンラインによる参加者数(内数)

○対象：市町村教育委員会職員、指導主事、社会教育主事、社会教育士、小・中・県立学校教職員、地域学校協働活動推進員、学校運営協議会委員等

○講師：ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋 宏之(東青・上北)

ゆめ☆まなびネット 代表 大谷 裕美子(西北)

一般社団法人 S.PLACE 代表理事 井上 尚子(中南・下北・三八)

イ 市町村地域学校協働活動相談支援

安定的な地域学校協働活動推進のために、市町村の本部整備や推進員配置、これらの有効な活用について、課員や統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員(地域学校協働活動コーディネーターアドバイザー)が相談対応するほか、先行市町村等を仲介するなどして、課題解決のためのサポートを行った。

○内容：地域学校協働本部の整備及びコミュニティ・スクールの導入に向けた相談対応、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた先進事例等の紹介等

○実績 ※県立学校への相談支援も含む

5/16(木) 県立八戸盲学校・八戸聾学校第1回学校運営協議会

5/23(木) 中南管内社会教育関係課長・公民館長及び担当者会議

対象：生涯学習・社会教育関係課長、文化財関係課長、社会体育関係課長、中央公民館長等

5/30(木) 県立森田養護学校第1回学校運営協議会

6/13(木) 五所川原市地域学校協働活動推進員研修

対象：地域学校協働活動推進員、教育委員会担当者

7/18(木) 平内町地域学校協働本部運営委員会

対象：地域学校協働活動推進員、学校関係者

9/26(木) つがる市学校運営協議会委員及び地域学校協働活動推進員研修会

対象：学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員、教育委員会担当者

11/20(水) 県立野辺地高等学校拡大校内研修

12/18(水) 弘前市公民館関係職員研修会

対象：公民館関係職員

2/12(水) 弘前市コミュニティ・スクール関係者研修会

対象：学校運営協議会委員、地域コーディネーター

ウ CSマイスター派遣事業(文部科学省) プッシュ型派遣への対応

文部科学省の事業により、黒石市、藤崎町、風間浦村、新郷村の4市町村と、東青地区、三八地区の高等学校を対象とした研修会にCSマイスターを派遣した。

○研修会の概要

9/25(水) 藤崎町教育委員会主催研修会

講師：森 万喜子 CSマイスター

対象：教育委員会担当者

内容：CSの概要(活用法、導入に向けた準備・事務処理の具体について)紹介、質疑応答等

10/16(水)風間浦村教育委員会主催研修会

講師：森 万喜子 CSマイスター

対象：教育委員会担当者、小・中学校管理職

*佐井村教育委員会も参加

内容：CSの概要(仕組み、導入効果等)紹介と熟議体験、質疑応答等

11/25(月)黒石市教育委員会主催研修会

講師：森 万喜子 CSマイスター

対象：教育委員会職員、小・中学校管理職、公民館関係者、地区住民代表

内容：CSの概要(法的根拠、必要性、導入に関する留意点等)紹介と熟議体験、質疑応答等

12/ 5(木)新郷村教育委員会主催研修会

講師：高野 睦 CSマイスター

対象：教育委員会担当者、小・中学校管理職

内容：CSの概要(仕組み、導入効果等)紹介と熟議体験、質疑応答等

11/25(月)県教育庁生涯学習課主催研修会

講師：高野 睦 CSマイスター

対象：東青地区県立学校の校長、教頭、担当教職員等

内容：CSの概要(法的根拠、仕組み、導入効果、高校の好事例等)紹介と熟議体験、質疑応答等

11/26(火)県教育庁生涯学習課主催研修会

講師：高野 睦 CSマイスター

対象：三八地区県立学校の校長、教頭、担当教職員等

内容：CSの概要(法的根拠、仕組み、導入効果、高校の好事例等)紹介と熟議体験、質疑応答等

(3) モデル県立学校への地域学校協働活動推進員配置

学校運営協議会を設置している県立学校のうち3校にモデル校として推進員を配置し、県立学校におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進と、教職員の働き方改革への効果等について、令和7年度に検証を行う。

○モデル校：県立黒石高等学校、県立森田養護学校、県立八戸高等支援学校

(学校運営協議会制度導入済みの県立学校より3校)

[成果]

- ・地域と学校の交流会では、地域と学校の連携の在り方や地域学校協働活動について学び、教育支援活動への理解を深めることができた。また、学校と地域及び企業関係者が意見交換を行い、交流を図ることができた。
- ・地域学校協働活動研修では、県内6地区計290名が参加した。今年度は地域学校協働活動推進員や学校運営協議会委員の参加が増え、国の動向や全国の好事例、それぞれの立場としての役割等について理解を深めることができた。
- ・市町村地域学校協働活動相談支援では、市町村の他に教育事務所や県立学校からの依頼もあり、CSの導入や地域学校協働本部の整備に向けた関心の高まりが感じられた。

[課題]

- ・地域と学校の交流会では、関係者の参加を増やし、参加者同士のつながりを広く構築することにより、学校と地域及び企業関係者との連携・協働が図られるよう、交流会の趣旨が伝わるような周知の工夫をする必要がある。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に関する理解度は、個人によって大きな差が見られることから、地域学校協働活動研修に、教員だけでなく指導主事や社会教育主事等への参加も積極的に働きかけ、理解を深める必要がある。
- ・相談依頼を受けるだけでなく、各教育事務所や自治体、学校と情報共有を図り、柔軟に伴走支援できる体制を整える必要がある。

学校・家庭・地域連携協働推進事業 37,393 千円

1 地域学校協働活動推進事業(県事業) 2,539 千円

[事業目的及び概要]

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進することを目的とし、継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

[事業内容]

(1) 会議の開催

県内における地域学校協働活動の総合的な在り方や、児童の放課後対策の諸問題について協議するとともに、市町村担当者を対象とした連絡会議を開催し、地域学校協働活動及び放課後児童対策の推進を図った。

ア 地域学校協働活動推進委員会

○期日：1/30（木）

○場所：県庁南棟5階 教育委員会室

○委員

No.	氏名	所属等	備考
1	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 非常勤講師	委員長
2	若松 大輔	弘前大学大学院教育学研究科 助教	
3	舘 千春	五戸町立切谷内小学校 校長	副委員長
4	富樫 克輝	八戸市立鯨中学校 校長	
5	中村 薫	青森市立新城中学校 校長	
6	横岡千和子	県PTA連合会 会長	
7	工藤知久子	青森市立浦町中学校区 CSディレクター	
8	葛西 彩子	五所川原市地域学校協働活動推進員	
9	工藤 清行	黒石高等学校地域学校協働活動推進員	
10	工藤 道子	森田養護学校地域学校協働活動推進員	
11	島脇 一夫	八戸高等支援学校地域学校協働活動推進員	
12	大瀬 公正	黒石市教育委員会社会教育課 主任主事	
13	境 真宏	五戸町教育委員会教育課社会教育班 主事	
14	宮川 厚	平川市健康福祉部子育て健康 課長	
15	附田 昌久	天間西児童センター センター長	
16	米塚 暢子	五所川原市立中央小学校放課後児童クラブ 主任	

イ 放課後児童対策に係る市町村担当者連絡会議

○期日：6/19（水）

○場所：県総合社会教育センター 第1研修室及び第5研修室

○対象：放課後児童対策に係る市町村担当者（社会教育主管課及び福祉部局）

○参加者数：55名

(2) 研修の実施

ア 地域学校協働活動推進のための研修【主管：県総合社会教育センター】

○目的：地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図った。

○期日：6/6(木)

○場所：県総合社会教育センター 第1研修室

○参加者数：43名

○内容：講義・演習 「社会教育で、地域と学校の持続可能&幸せな未来をつくろう」

講師 岩手県生涯学習振興協会 事務局長 佐々木 勉

イ 放課後児童対策に係る支援員等研修会【主管：各教育事務所】

○目的：放課後児童対策の事業等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、

安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催する。

○期日：前後期各1日（東青地区の後期は2日）

地区	前期	後期
東青	6/11(火)	9/10(火)、9/11(水)
西北	6/6(木)	10/4(金)
中南	7/12(金)	9/27(金)
上北	6/5(水)	10/28(月)
下北	6/12(水)	10/9(水)
三八	6/4(火)	10/10(木)

○対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動支援員、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童支援員等

(3) 統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員の配置

県内の地域学校協働活動を推進するため、統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員(地域学校協働活動コーディネーターアドバイザー)を配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進、情報提供等を行った。

<主な活動実績>

※ 重点枠事業「地域と学校とのパートナーシップ強化事業」にも記載したもののうち、主として講師等を務めたもの。

◎情報提供等

- ・五所川原市地域学校協働活動推進員研修会(6/13(木))
- ・平内町地域学校協働本部運営委員会(7/18(木))
- ・つがる市学校運営協議会委員及びつがる市地域学校協働活動推進員研修会(9/26(木))
- ・第2回弘前市公民館関係職員研修会(12/18(水))
- ・弘前市コミュニティ・スクール関係者研修会(2/12(水))

◎情報発信・・・「みんながつながる 地域学校協働活動便り」発行

第12号(6/18(火))、第13号(7/30(火))、第14号(9/24(火))、第15号(10/30(水))、第16号(1/9(木))、第17号(3/3(月))

・市町村教育委員会、県立学校等へ配布

◎情報収集…情報提供・情報発信のために、多数の研修会等へ参加した。

2 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助 34,854千円

[事業目的及び概要]

市町村が行う地域学校協働活動の推進に要する経費について、県が補助を行う事業である。

[事業内容]

地域学校協働活動(放課後子供教室を含む。)の取組を行う市町村(中核市を除く。)に補助金を交付する。

【国庫補助 1/3、県補助 1/3、市町村負担 1/3】

交付先 20市町村、地域学校協働本部 30本部、放課後子供教室 72教室

平内町 今別町 外ヶ浜町 五所川原市 つがる市 鱒ヶ沢町 鶴田町 中泊町

弘前市 平川市 大鰐町 十和田市 三沢市 六戸町 おいらせ町 むつ市

風間浦村 佐井村 三戸町 五戸町

[成果]

- ・各研修会において、参加者同士の情報交換ができ、それぞれの業務内容や課題について交流・共有することができた。
- ・今年度も複数の自治体から、統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員に講師依頼があった。自治体の現状やニーズに合った情報提供ができたことから、自治体担当者や参加者の地域学校協働活動への理解が深まった。
- ・補助金の交付を通じ、各市町村における地域学校協働活動の充実につながった。

【課題】

- ・今後も、参加者同士の情報交換やネットワークが形成される研修会を充実する必要がある。
- ・国の放課後児童対策パッケージ等に対し、引き続き、こども家庭部と連携しながら、市町村における課題解決、円滑な取組促進が図られるように支援していく必要がある。

あおもり家庭教育支援総合事業 2,514千円

【事業目的及び概要】

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育ができることを目的として、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく気運を高めるとともに、親の育ちを応援する学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

【事業内容】

(1) 青森県家庭教育支援推進協議会の開催

今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するため、本県の家庭教育支援事業(学習機会の提供や支援者の活動を推進する研修等)について協議した。

○構成：有識者、家庭教育支援者など 10名以内

○回数：年2回

(2) 家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム」の作成・周知

家庭教育の学習を推進するため、「あおもり家庭教育アドバイザー」が活用する家庭教育の学習テキストを作成する。また、「あおもり親楽プログラム」の活用促進を図るためのリーフレットを関係各所へ配布した。

○体裁：A4判小冊子「改訂版あおもり親楽プログラム」1・2・3の増刷 850部

(3) 青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる方々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、市町村職員及び家庭教育支援関係者等のつながりを深める研修会を県内2地区で開催した。

地区	日時	場所	参加者数	内容
西北	8/29(木)	鶴田町公民館	28名	講義・演習 「ペアレントトレーニングで学ぶ 親と子の幸せなかかわり方」
上北	8/30(金)	十和田市民文化センター	31名	講師 郡山家庭教育を支援する会 圓谷 円

(4) あおもり家庭教育応援フォーラムの開催

地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会及び様々な家庭教育支援に関する情報提供等を通して、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

○期日：12/7(土)

○場所：県総合社会教育センター

○参加者数：35名

○内容：ア 講演：「野性的で多様性に富み、共存できる人に」

イ 質問コーナー：「ここが知りたい 安家先生 子育てQ&A」

講師：(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 理事長 安家 周一

(5) 地域の家庭支援を目指した多世代交流・参加型研修会の開催(県地域婦人団体連合会へ委託)

地域の子どもからシニアまでの多世代を対象とした、気軽に参加・交流できる生涯スポーツ的なレクリエーション体験や食育等の学ぶ機会を提供し、地域の家庭支援の土台となる全世代の健康増進や交流・活性化に寄与する研修会を県内2地区で開催した。

地区	日時	場所	参加者数	内容
西北	9/26(木)	鱒ヶ沢町山村開発センター	70名	スカットボールを一緒に楽しもう
下北	9/28(土)	東通村体育館	40名	わなげゲームを一緒に楽しもう

(6) 読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成

県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内

6 地区で開催し、合計 181 名が受講した。そのうち、親子ふれあい読書アドバイザーとして新たに 28 名を登録した。(累計登録者数：553 名)

地区	期日	場所	参加者数	講師
東青	10/12(土)	油川市民センター	15 名	親子ふれあい読書アドバイザー 工藤 清子
西北	10/21(月)	深浦町役場町民文化ホール	18 名	アートセラピーパステル 今 ゆき子 親子ふれあい読書アドバイザー 北澤 由美子
中南	10/23(水)	平川市文化センター	50 名	歌とおはなしグループ「かぜ」 代表 谷 京子
上北	10/14(月)	十和田市民図書館	36 名	語りの会「こま草」 藤盛 順子 阿部 智留恵 他 2 名 青森県読書団体連絡協議会 副会長 西村 恵美子
下北	9/21(土)	むつ市立図書館	4 名	青森大学社会学部 教授 秋田 敏博
三八	11/19(火)	八戸市津波防災センター	58 名	八戸市読書団体連合会読書部 会長 前田 敏子 A T Vフリーアナウンサー 川口 浩一

【成果】

- ・各種研修会において、家庭教育に係る今日的な課題についての学びを提供し、参加者同士の交流・情報交換を行うことができた。
- ・家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム」を活用した研修会を勧める P R 活動を、年間をとおして行い、特に小中学校に広く認知されるようになってきた。
- ・家庭教育支援団体や事業委託団体と適宜、情報交換を行い、県内の家庭教育支援に係る現状や課題について把握することができた。

【課題】

- ・地域全体で家庭教育を支える気運を醸成するための魅力ある研修会を企画・提供していくことが課題である。
- ・家庭教育を支援する個人・団体をフォローアップするための体制を構築していくことが課題である。

県総合社会教育センター

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業 1,415 千円

【事業目的及び概要】

大学生が在学中に専門的な研修(コミュニケーション、コーチング等)を受講し、一定のスキルを獲得した上で、高校生等を対象にワークショップを企画運営してもらい、社会人としての実践力を身に付けるための一助とする。

また、高校生等は、ワークショップで、少し年上の大学生と自分の今と将来等について「カタル」ことにより、自分自身と向き合うためのきっかけづくりとする。

ワークショップの開催を通して、参加者全員が自らの夢や目標に向かい、主体的に行動できる人材の育成に繋げるとともに、双方のキャリア形成のサポートに資するものである。

【事業内容】

(1) ワークショップ「キャリサポ」(高校企画)、「Jr. キャリサポ」(中学校企画)の実施

高校生等の意欲を引き出し、自分自身の見つめ直しにつながる、大学生によるワークショップを開催する。

ア 時期：8～2 月

イ 対象校：実施希望の県内高等学校 10 校、中学校 3 校(東青、上北、下北地区)

ウ 対象生徒：実施校の高校生及び中学生

(2) ワークショップ実施に向けたキャリア支援活動

- ア 関係者研修会の開催
 - (ア) 教員対象担当者会議
- イ 大学生研修会の実施
 - (ア) 基本研修
 - (イ) ワークショップ演習
 - (ウ) 合同リハーサル
 - (エ) 応用研修
 - (オ) チーフ研修
 - (カ) 大学生会議

[成果]

(1) 関係者研修会：5/10(金)オンライン実施。高校担当者9名参加。中学校担当者は個別対応。

(2) 参加者の状況

- ア 高校生等の参加状況
 - (ア) 高校生・・・1,526名（実施校・・・10校）
 - (イ) 中学生・・・375名（実施校・・・6校）
- イ 大学生の参加状況
 - (ア) 新規登録者・・・193名（全登録者710名）
- ウ 大学生の研修受講人数状況
 - (ア) 基本研修（年間3回）・・・157名
 - (イ) ワークショップ演習（年間3回）・・・163名
 - (ウ) 応用研修（年間2回）・・・24名
- エ 大学生のワークショップ参加者
 - (ア) 実人数・・・189人
 - (イ) 延人数・・・527人
- オ 実施校別内訳
 - (ア) 高等学校対象ワークショップ「キャリアサポ」

No.	期日	実施校	対象生徒	参加大学生
1	8/23(金)	北斗高等学校	2学年(9クラス159名)	50名
2	28(水)	大湊高等学校	1,2学年(8クラス266名)	58名
3	30(金)	野辺地西高等学校	1学年(3クラス74名)	30名
4	9/4(水)	弘前南高等学校	1学年(5クラス199名)	63名
5	6(金)	五所川原第一高等学校	1学年(2クラス32名)	20名
6	9(月)	六ヶ所高等学校	1,2学年(2クラス76名)	21名
7	18(水)	三本木農業恵拓高等学校	1,2学年(5クラス160名)	46名
8	20(金)	黒石高等学校	1学年(5クラス198名)	60名
9	2/12(水)	八戸工業大学第二高等学校	1学年(6クラス194名)	41名
10	18(火)	柴田学園高等学校	1学年(5クラス168名)	51名

(イ) 中学校対象ワークショップ「Jr. キャリサポ」

	期日	実施校	対象生徒	参加大学生
1	9/3(火)	上磯地区中学4校合同 (蟹田、三厩、蓬田、今別)	蟹田中・・・全学年(3クラス49名) 三厩中・・・2,3学年(2クラス9名) 蓬田中・・・全学年(3クラス64名) 今別中・・・全学年(3クラス14名)	49名
2	11(水)	七戸町立天間林中学校	3学年(1クラス41名)	17名
3	13(金)	むつ市立田名部中学校	3学年(6クラス198名)	48名

[課題]

・卒業後に県内に残り、当事業で学んだことを生かしながら、青森県のために活躍したいと考える人材を育てていくことが必要である。

- ・郷土の魅力やふるさとへの誇りなど、青森県に関する内容に触れることが必要である。

高校生スキルアッププログラム推進事業 225 千円

〔事業目的及び概要〕

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

〔事業内容〕

- (1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営
- (2) 教員説明会の実施
- (3) 評価サービス
- (4) 県民カレッジとの連携

〔成果〕

- ・教員説明会 5/10(金)オンライン開催。高校担当者 15 校 19 名が参加。
- ・参加校数 28 校、参加人数 3,714 名、認定証 54 件、奨励証 45 件
- ・事業連携によるあおもり県民カレッジ新規入学者数 986 名

〔課題〕

- ・生徒が多様な社会活動に取り組み、知識や経験の幅をより広げられるよう、様々な学校外学修情報の提供を継続する必要がある。
- ・参加校や事業の実態に応じて要項の改定を行う必要がある。また、申請に伴う作業負担を軽減するため、生徒や高校担当者にとってわかりやすく使いやすい内容となるよう、マニュアルや申請様式等の改善に引き続き取り組む必要がある。

青森で生きる未来人財育成事業 872 千円

〔事業目的及び概要〕

青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的として、高校生を地域で行われるボランティア活動に派遣する。

〔事業内容〕

- (1) ボランティアチーム養成講座の実施

異年齢交流などの多様な体験活動実施のため、様々なボランティア活動について扱う講座を実施。

	実施日時	内容・講師	受講者数
1	6/9(日) 14:00~15:00	テーマ:「ボランティア活動」 日本赤十字社青森県支部 事業推進課 主事 岩井 雄太郎	41 名
2	6/15(土) 14:00~15:00	テーマ:「スポーツボランティア」 株式会社 ブランデュエ弘前 代表取締役 西澤 雄貴	31 名
3	6/30(日) 14:00~15:00	テーマ:「子育て支援ボランティア」 family café あづま〜る 代表 藤林 秀	27 名

- (2) ボランティアチーム員の登録者数及び派遣、コーディネート先

(令和 6 年度登録者の居住地)

[単位:人]

青森市	五所川原市	弘前市	十和田市	三沢市	野辺地町	六戸町
18	4	1	8	3	1	1
東北町	七戸町	むつ市	東通村	八戸市	五戸町	南部町
1	1	1	1	9	1	1
岩手県二戸市		〔計 15 市町村〕				
1						

団体名	活動名及び活動内容	回数/人数
十和田市農林商工部 戦略課	とわだ産品販売 十和田にんにくの日/ブースの運営補助	1/1

八戸市総合政策部 市民連携推進課	わいぐ交流会／ブース及びステージの運営補助	1/3
弘前市教育委員会 文化財課	大森勝山遺跡冬至の魅力発信ツアー／運営補助	1/2
県総合社会教育センター 教育活動支援課	生涯学習フェア 2024／ブースの運営補助	1/1
青森スポーツクリエイション株式会社	青森ワッツホームゲーム／会場設営・撤去、競技運営	4/7
脳卒中と向き合う活動団体 OneFeels	脳卒中と秋祭り 2024／ブース及びステージの運営補助	1/1
NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ	すてっぷ子ども教室 2024／小学生の活動支援	1/1
特定非営利活動法人 日本人財発掘育成協会	ギビング・ツリー2024／プレゼントの受け渡し	2/2
family café あづま〜る	family café あづま〜る／子育てサロンの運営補助	1/2
平川市教育委員会	こつこつ教室／学習支援	1/1
青の煌めきあおもり国スポ・障スポ実行委員会	広報ボランティア／啓発・PR活動	2/4

【成果】

- ・ボランティアチーム養成講座について、オンライン受講及び後日のアーカイブ視聴が可能であることにより、県内全域からの参加につながった。
- ・県内の市町村教育委員会及びNPO活動支援担当課に四半期ごとに活動照会を行ったことで、これまでより多くの活動情報を集約して高校生へ情報提供でき、派遣回数 16 回、派遣人数はのべ 25 名となり、前年度より 12 名の増加につながった。

【課題】

- ・ボランティアチーム養成講座について、アーカイブ視聴者の増加に伴い、オンライン受講者が減少しているため、受講者相互のネットワークづくりや実践活動への参加につながる内容を検討する必要がある。
- ・全 3 回の講座受講を活動派遣の条件としたため、受講者数と比較してボランティアチームへの登録者数が少ない傾向が見られた。事業の仕組みを見直し、活動派遣へ効果的につなげる必要がある。

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

【事業目的及び概要】

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組むための方策の研究を目的として、高校生・大学生・専門学校生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 団体募集(高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体)
- (2) 団体の指定

	団体名	校種	主な活動内容	人数
社会参加活動	Lesta	高校 大学	・異年齢交流活動の企画、運営 ・小中学生対象の学習支援 ・発達障がい等についての研修	19名
	青森大学三味線部	大学	・異年齢交流活動の企画、運営 ・伝統芸能継承活動の企画、運営 ・スキル向上のための練習、講習会	21名
	Glacies	大学	・異年齢交流活動の企画、運営 ・カーリングやスポーツ人口拡大に向けた活動の企画、運営	16名

創作活動	ORION. liveproject	高校	・青森市内の高校生を主体としたイベントの企画、発表	10名
------	--------------------	----	---------------------------	-----

(3) 団体の活動に対する支援

- ア 研修室等使用料の減免
- イ 運営会議・研修・作業等での教材開発室の使用承認
- ウ 発表の場の提供(生涯学習フェア等)
- エ 情報発信用の専用掲示スペースの設置
- オ 所報「響」やHP等での活動状況の紹介
- カ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- キ 地域活動団体、創作活動団体、教育活動団体等との連携に関する連絡調整
- ク 協力名義使用の承認(「協力 青森県総合社会教育センター」など)

(4) 研究のための代表者会議の開催

[成果]

- ・青少年社会参加活動モデル団体として3団体、創作活動モデル団体として1団体を指定し、主に研修室等使用料の減免や協力名義使用の承認等の活動に対する支援を行った。
- ・イベントの開催の仕方や必要となる手続き等、活動に対する情報提供やアドバイスを求める団体を支援した。
- ・代表者会議では、各モデル団体の代表者及び役員等参集者を拡大し、各モデル団体の活動状況報告と団体同士の横のつながりを強化する演習を行ったことで、学生団体の活動を持続的に推進するために必要な支援のあり方について研究材料を蓄積することができた。

[課題]

- ・モデル団体同士のつながりの更なる強化が必要である。
- ・活動を更に活性化させるとともに、どのような支援をすれば、各モデル団体が持続的に活発に活動できるか、支援策を検討する必要がある。

あおもり家庭教育力向上事業	957千円
---------------	-------

[事業目的及び概要]

地域における家庭教育支援体制を整備することを目的として、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人財を「あおもり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

実施地区	中南	下北
会場	弘前市総合学習センター	下北文化会館
開催回数	全6回(6月～11月の月1回)	全6回(6月～11月の月1回)
受講者数	18名(のべ59名)	16名(のべ47名)
うち新規登録者数	7名	8名

回	期日・地区	内容・講師
1	6/11(火)・中南	開講式・オリエンテーション 講義「家庭教育支援者の役割・心構え」 特定非営利活動法人 十和田NPO子どもセンター・ハピタの 代表理事 中沢 洋子
	6/21(金)・下北	

2	7/ 4(木)・中南	講義「子どもの気持ちを理解するために」 八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 教授 差波 直樹
	7/31(水)・下北	演習「あおもり親楽プログラムⅠ」 県総合社会教育センター 職員
3	8/22(木)・中南	講義・演習 家庭教育支援チーム・子育て支援団体等見学 中南地区 社会福祉法人五倫会 幼保連携型認定こども園 美郷こども園 保育教諭 井澤 直央子
	8/ 2(金)・下北	下北地区 社会福祉法人むつ中央福祉会 大平保育園 園長 岩谷 涼子
4	9/ 5(木)・中南	講義「気になる子どもの理解と対応」 青森県発達障がい者支援センター「Doors」 センター長 分枝 篤史
	9/12(木)・下北	演習「あおもり親楽プログラムⅡ」 県総合社会教育センター 職員
5	10/17(木)・中南	講義「今、親が悩むこと」 柴田学園大学生生活創生学部 こども発達学科 講師 萩臺 美紀
	10/24(木)・下北	演習「あおもり親楽プログラムⅢ」 県総合社会教育センター 職員
6	11/ 6(水)・下北	演習「あおもり親楽プログラムⅣ」 県総合社会教育センター 職員
	11/20(水)・中南	閉講式

(2) あおもり家庭教育アドバイザースキルアップ講座

開催日時	11/17(日) 10:00～12:00
開催形態	オンライン・アーカイブ方式
内容	講義 「スマホと子育て」 株式会社ミヤノモリ・ラボラトリー 代表取締役 高橋 大洋
受講者数	24名

(3) あおもり親楽プログラム普及活動

派遣回数	16回
派遣のべ人数	のべ34名
主な派遣先 (イベント等)	・蓬田村教育委員会 (家庭教育学級) ・むつ子育てイベント実行委員会 (親子マルシェ) ・外ヶ浜町立蟹田小学校 (参観日全体会) など

(4) あおもり家庭教育アドバイザー登録情報の管理

(5) あおもり家庭教育アドバイザーの活用

[成果]

- ・受講者の満足度が高く、アドバイザーとして地域で活動していこうとする意欲が見られた。
- ・アドバイザー派遣実績数が増え、多くのアドバイザーを派遣することができた。

[課題]

- ・アドバイザーの人数が増えているが、活動する機会が少なく、人財を活かしきれていない。
- ・「親楽プログラム」「家庭教育アドバイザー」の認知度が低いため、周知の仕方を工夫する必要がある。

家庭教育支援動画制作普及事業 3,580 千円

[事業目的及び概要]

子育てに対する不安や悩みを解決する糸口とし、家庭教育の充実を図ることを目的として、子育て情報を動画により発信する事業である。

[事業内容]

(1) 家庭教育支援動画等の制作(委託業者制作)

	タイトル	動画時間
1	家庭教育ってなに？	約3分
2	家庭から始める防災(小学校低学年編、中・高学年編、小学校編、中高生編、総集編)	約6分～10分
3	あおり家庭教育アドバイザー	約3分30秒
4	あおり子育てネットCM	15秒

(2) 家庭教育支援動画等の放映・配信

ア 期日 2/1(土)～2/28(金)

イ SNS種別 YouTube、Facebook、Instagram、xで配信

(3) あおり子育てネットの活用・普及啓発

あおり子育てネットに関するポスター・チラシを制作・発送

ポスター：県内幼稚園、保育園、こども園、小中高等学校、支援団体等1,600ヶ所へ送付

チラシ：2,000部作成し、大型商業施設や総合社会教育センター家庭教育関係事業にて配布

[成果]

- ・関心の高い防災動画や講座・周知で活用しやすい教材動画を制作することができた。
- ・より多くの子育て中の県民へ届くため、SNSを活用するとともに、ポスター・チラシ、県の情報誌等でも周知を行った。

[課題]

- ・YouTubeの視聴回数等から今後の動画制作の在り方を検討していく段階にきている。
- ・県民のためとなる動画テーマの選定をする必要がある。

家庭教育相談事業 372 千円

[事業目的及び概要]

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

[事業内容]

(1) 対象：乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族

(2) 実施方法：電話相談・週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00～15:00
メール相談・24時間受付

(3) 場所：県総合社会教育センター電話相談室

(4) 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などのこどもに対する悩みや家庭教育全般について

(5) 相談体制：家庭教育相談員が対応

(6) 相談件数：17件(電話相談10件、メール相談7件)

[成果]

- ・相談者の悩みに対し、寄り添いながら冷静に対応することができた。
- ・相談者の悩みが軽減し、行動変容につながるような対応ができた。
- ・各相談機関との情報交換や研修会を開催したことによって、相談員の資質向上につながった。

[課題]

- ・相談内容が複雑化・深刻化しているため、相談員の資質向上や専門機関への紹介等がより求められるようになる。
- ・相談件数が昨年度に比べ、大幅に減った。県だけではなく、市町村でも相談機関が充実してきており、今後の在り方について検討していく必要がある。

県立図書館

こどもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

こどもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に対して、幼児・児童・生徒用の図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

図書セットの内容		利用対象	配本先	配本冊数
1 市町村内巡回図書セット	(1) 小学校	低学年	74	2,600
		中学年	76	2,640
		高学年	76	2,640
	(2) 中学校	中学校	21	900
	(3) 読み聞かせ絵本児童書等	幼稚園・保育所等	101	2,760
	(4) 大型絵本	幼稚園・保育所等	107	570
2 学習支援セット		小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等	10	868
3 ミニセット		市町村立図書館等(一部、高等学校・特別支援学校を含む。)	48	1,343

[成果]

学校や市町村立図書館等への支援を継続的に行うことができている。

[課題]

学習支援セットについては利用しやすいようにテーマの見直しを行い、貸出数増加につながるよう利用方法について周知していく必要がある。引き続き新しい本を利用してもらえるように、毎年度一定数、図書セットの内容更新を進めていく。

県立梵珠少年自然の家

県立梵珠少年自然の家主催事業 1,615千円

(1) 看板事業

〔事業目的及び概要〕

小学生から中学生までの幅広い年代の「こども」を対象に、豊かな自然環境の中で行う野営・野外炊事などの様々な自然体験活動をとおして、基本的な生活習慣の確立や仲間と協力しようとする態度を育んでいく事業である。

〔事業内容及び結果〕

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
9歳アドベンチャーキャンプ①～ひとりできるぞ～	7/13(土)～ 7/15(月)	小学3年～ 小学4年 の児童	36名	野外活動(アドベンチャーゲームほか)、キャンドルサービス、野外炊事、思い出クラフト、館内シュラフ泊
夏のチャレンジキャンプ～山に！川に！真夏の挑戦2024～	8/7(水)～ 8/10(土)	小学5年～ 中学3年 の児童生徒	30名	野外活動(登山・ラフティング・キャンプファイヤーほか)、見学(津軽ダムほか)、野外炊事、市街外食、思い出クラフト、テント泊
9歳アドベンチャーキャンプ②～ひとりできるぞ～	10/12(土)～ 10/14(月)	小学3年～ 小学4年 の児童	35名	野外活動(アドベンチャーゲームほか)、キャンドルサービス、野外炊事、思い出クラフト、館内シュラフ泊
冬の3days キャンプ～かまくら基地をつくって冬を楽しもう～	1/10(金)～ 1/12(日)	小学4年～ 中学2年 の児童生徒	34名	かまくら基地作り、野外活動(チューブそり、スノーシューハイク)、屋内活動(館内QRゲーム)、炊事体験、思い出クラフト、館内泊
7歳わんぱくキャンプ～寒さに負けないぼんじゅキッズの冬遊び～	2/15(土)～ 2/16(日)	小学1年～ 小学2年 の児童	28名	ぼんじゅスノーランド作り・遊び、炊事体験、思い出クラフト、館内泊

〔成果〕

- ・定員を上回る応募者のニーズに応え、定員や実施回数を増やすなどの取組ができた。
- ・昨年度の反省等を生かし、活動プログラムや内容などを見直した上で実施したことにより、参加者の満足度を高めることができた。
- ・救護員、救護補助員、ボランティアスタッフの人数や体制を強化したことにより、安全性をより高めることができた。

〔課題〕

- ・定員や実施回数を増やしてもなお定員をオーバーし、抽選で参加者を決定しなければならない事業があったため、さらに実施方法等を検討していく必要がある。
- ・参加者の中には特別な支援を要する者もしばしば含まれていたため、保護者との連絡や連携を密にし、受入れ体制をさらに充実させていく必要がある。

(2) 養成事業

〔事業目的及び概要〕

当施設利用団体の引率者や高校生・大学生などを対象に、豊かな自然環境の中で行う活動プログラムや自然体験活動を安心・安全に実施するための研修やセミナー、講座等の開催をとおして、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
施設利用団体事前打合せ研修	(全体会) 4/16(火) (個別研修会) 利用日の14日前までに実施	令和6年度利用予定団体の引率者	(全体会) 36名	(全体会) 講義、説明、活動プログラム体験(野外活動、屋内活動、創作活動)
自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー (1)入門(必修) (2)春を楽しむサン day (3)ファミリーS キャンプ (4)9歳アドベンチャーC① (5)ネイチャークラブ① (6)夏のチャレンジキャンプ (7)ネイチャークラブ② (8)9歳アドベンチャーC② (9)ぼんじゅフェスタ (10)クラフト day (11)ウィンタースクール (12)冬の3days キャンプ (13)ホワイト day (14)7歳わんぱくキャンプ (15)ふりかえり(任意) (16)実践レポート	実施日は各事業を参照 (1)5/11(土) (15)3/8(土)	高校生及び大学生	(1)72名 (2)6名 (3)9名 (4)15名 (5)4名 (6)11名 (7)4名 (8)17名 (9)15名 (10)10名 (11)2名 (12)13名 (13)6名 (14)15名 (15)35名 (16)7名	(1)の「ボランティア入門セミナー」は必修として受講した後、看板事業、親子事業、学習・生活習慣支援事業の全13事業の中から1つ以上を選択して受講する。なお、(15)の「ボランティアふりかえりセミナー」は任意参加とする。 セミナー受講者は、事業参加1日につき1単位を付与し、計7単位以上を取得した者は「マスターボランティア」、計30単位以上を取得した者は「レジェンドボランティア」として認定する。実践レポート提出にも1単位を付与する。
ぼんじゅ出前講座	通年実施 【各回即日】 ※直接指導は 11月～ 3月のみ	小・中学校、各種学校、青少年教育団体、幼児施設等	3120名	対象の団体が開催する各種行事(事業)において、直接指導又は間接指導を行う。 なお、派遣職員の旅費は無料とし、活動材料費や用具運搬費は団体の負担とする。

[成果]

- ・実施3年目の「施設利用団体事前打合せ研修」は、研修を必要とする人がより効率的に行うことができる研修に定着してきたという意見等が、参加者アンケートから多く聞かれた。
- ・「自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー」は、登録者の8割を超える者が必修以外のセミナーにも参加し、昨年度を大幅に上回る参加率を達成することができた。
- ・「ぼんじゅ出前講座」では、コミュニティ・スクールでのイベント活動など、多くの人が参集する場面での利用が増えたことにより、昨年度を上回る利用者数となった。

[課題]

- ・「自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー」では、登録者の学校での試験期間と事業日が重なることなどがあり、予定のボランティアスタッフ数に満たなかったこともあったため、別途、近隣の高等学校にボランティアを依頼するなど、対応策を検討しておく必要がある。

(3) 親子事業

[事業目的及び概要]

小・中学生を含む保護者とその家族、いわゆる「親子」を対象に、豊かな自然環境の中で行う自然に親しむための体験活動や創作活動を通して、家族のふれあいや絆を深める機会を提供する事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期日	対象	参加者数	内容
春を楽しむサン day ～五感を使って、春の自然を楽しく学ぼう～	4/29(月)	小・中学生を含む保護者とその家族	142名 (42家族)	野外活動(春の自然観察)、野外炊事(カートンドック)、創作活動
ファミリースプリング キャンプ ～家族で初めてのキャンプ体験をしてみませんか～	5/25(土)～ 5/26(日)		59名 (18家族)	テント泊、野外炊事(ダッチオープン料理、ライスクッカー料理)、野外活動(自然散策、ぼんファイヤーほか)、創作活動
自然体験ぼんじゅフェスタ～学・創・食・遊の体験ブースで梵珠の秋を満喫しよう～	10/27(日)		130名 (37家族)	ダッチオープン体験、ホットサンドメーカー体験、たき火・火起こし体験、本格リース作り体験、創作プログラム体験、遊びリンピック、館内食体験、セルフカフェ
冬をいろどるクラフト day～クリスマス・お正月飾りを親子でつくろう～	12/8(日)		103名 (29家族)	クラフト①「ミニ門松」、クラフト②「絵馬」、クラフト③「クリスマスフォトフレーム」、クラフト④「クリスマスきになる木」 ※その他、昼食提供やセルフカフェの開設あり
冬を楽しむホワイト day～親子で白銀の世界へとびだそう～	2/1(土)		30名 (10家族)	野外活動①(ミニ雪灯籠作りなどから選択)、館内炊事、野外活動②(チューブそり遊びなど自由活動)

[成果]

- ・昨年度の反省等を生かし、活動プログラムや内容などを見直した上で実施したことにより、昨年度並み又は昨年度以上の参加者数となった。
- ・ボランティアスタッフが明るく親切に接してくれたことなどが、参加者の満足度につながったということ、参加者アンケートなどからうかがうことができた。

[課題]

- ・「冬を楽しむホワイト day」は、昨年度より参加者数が減少したため、季節の行事である節分などに関連付けた内容の見直しなどを図りたい。

(4) 学習・生活習慣支援事業

[事業目的及び概要]

小学生から中学生までの「こども」を対象に、豊かな自然環境の中での体験活動を行いながら、主体的に学んだり、規則正しい生活を送ったりする活動をとおして、その後の学校・家庭生活に役立てていこうとする基礎的態度を育てていく事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期日	対象	参加者数	内容
ぼんじゅネイチャー クラブ	① 7/27(土) ② 8/24(土)	小学3年～ 小学6年 の児童	① 20名 ② 13名	① カブトムシトラップ、ホテル観察 ② 水中生物の観察
ぼんじゅウィンタースクール	12/24(火)～ 12/26(木)	小学4年～ 中学2年 の児童生徒	9名	学習タイム、館内食、歯みがきタイム、野外活動タイム(雪灯籠作り、スノーシューハイク、雪上運動会)、フリータイム

【成果】

- ・「ぼんじゅネイチャークラブ」は、年度始めに配布したイベント情報に本事業を掲載し広く周知したことにより、昨年度より参加者数が増えた。
- ・「ぼんじゅウィンタースクール」では、事業に対応する研修課職員をシフト制としたことにより、職員の負担軽減につなげることができた。

【課題】

- ・「ぼんじゅウィンタースクール」は、定員を大きく下回る参加者数であったため、事業の趣旨に則りながらも、魅力のある活動プログラム開発が必要不可欠である。

県立種差少年自然の家

種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、こどもの祭典) 1,764千円

【事業目的及び概要】

年長児・小・中学生が自然の中で家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましいこどもを育てることを目的として、種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などの学習機会の提供をする事業である。

【事業内容】

(1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/12(日)	年 長 児 ・ 小・中学生 とその保護 者	93名	春の自然を楽しもう ・潮風トレイルウォーク、創作活動 他
たねさしワールド 「エンジョイ! 海遊び」①②③④ ※4回開催	7/6(土)		133名	海で思いっきり遊ぼう ・いかだやカヌー遊び、サンドクラフト作 り、磯遊び 他
	7/7(日)		122名	※7/7、8/31は荒天のため、館内活動とな った。実施内容は、ニュースポーツ、ロ ープワーク、貝がらアート 他
	8/31(土)		124名	
	9/1(日)		138名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/13(日)		125名	秋の自然を楽しもう ・ツリークライミング、火おこし体験 ・秋の冒険ウォーク、マープリングアート 他
たねさしワールド 「冬の季節を感じ て」 ※2回開催	12/7(土)	56名	・ミニしめ飾りづくり	
	12/8(日)	71名		
たねさしワールド 「エンジョイ! 雪遊び」①② ※2回開催	2/1(土)	4歳以上の 幼保・小・中 学生とその 保護者	110名	冬の自然を楽しもう ・スノーチューブすべり、そりあそび、 ぐにやぐにや凧あげ、せんべい焼き 他
	2/2(日)		111名	
たねさしワールド 「こども大作戦」 ①② ※2回開催	2/22(土) ～23(日)	小学3年 ～4年	114名	こどもだけでとまってみよう ・仲間づくり、星空ちょうちんハイク、こ ども体験ツアー(ツリークライミング、 スノーチューブすべり、凧揚げ、ぶんぶ んごま作り、砂鉄ストラップ作り) 他
	3/1(土) ～2(日)	小学1年 ～2年	110名	

(2) こどもの祭典

事業名	期 日	対 象	参加人数	内 容
おいでよ! サマーキャンプA	7/30(火) ～31(水)	小学5年～ 中学3年	78名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・キャンプファイヤー ・追跡ハイキング・チャレンジ大会 ・火おこし体験 他
おいでよ! サマーキャンプB	8/10(土) ～11(日)		74名	
わくわくどきどき ウィンターキャン プ	12/25(水) ～27(金)		78名	・冬の野外テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・星空のつどい ・ボンファイヤー ・発見ウォーク ・記念クラフトづくり 他

〔成果〕

- ・自然と遊ぼうの事業には定員以上の申込みがあり、参加者にとっては活動プログラムが、自然の中で年少児から大人まで楽しめるものになっているので、好評であった。
- ・自然と遊ぼうの事業では、「春」「夏」「秋」「冬」の四季折々の種差の自然環境を生かしたプログラムと新プログラムの提供をしている。
- ・こどもの祭典の事業では、中学生の参加者が例年よりも多く、そのため、リーダーとして小学生に積極的に支援したり、話し相手になったりと、交流と絆が深まった。

〔課題〕

- ・ほとんどの事業で定員を上回る応募者数があり、抽選となったところが多く、今後参加人員を増やすなどの工夫が必要である。
- ・こどもの祭典では、小学生の参加が多いのであるが、中学生が少ないので、各中学校にも呼びかけていきたい。
- ・こども大作戦では、ひとつの小学校に応募者が集中することが多かったので、抽選の際は考慮していきたい。

自然体験活動支援事業 349 千円

〔事業目的及び概要〕

学校や公民館、児童館、放課後児童クラブなどの身近な施設内外の活動場所で、こどもたちに自然体験活動やニュースポーツ活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の実地支援を行う。また、自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小・中学校等の教職員及び青少年団体指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

〔事業内容〕

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10～3月 *6～9月は 原則として 実施なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童館、 公民館、放課後児童 クラブ、青少年団体 や成人団体 等	177 団体 16,727 名	種差少年自然の家のプログラムの中で出前対応可能なもの (せんべい焼き、フォトフレーム、ど んぐりアート、動物マグネット、たね さし万華鏡、ミニ門松 他)
自然体験活動 研修会	5/25(土) ～26(日)	小学校・特別支援学 校教諭、市町村教育 委員会職員、高校 生、ボランティアの 会 他	46 名	ネイチャーゲーム、ツリークライミン グ、ランタン作り、ナイトハイク、野 外炊事、避難・救助訓練(海活動)、A ED操作法 他

〔成果〕

- ・自然体験活動出前講座では、昨年度よりも依頼が増え、小学校団体を中心に保育園、幼稚園、特別支援学校など多岐にわたっており、アンケートでも高い評価を受けている。
- ・活動プログラムでは、「南部せんべい焼き」「たねさしアロマアート」「ニュースポーツ」「ミニしめ飾り」など、各団体独自ではできない活動の依頼が多かった。
- ・自然体験活動研修会では、中堅教諭等資質向上研修の受講者の参加もあり、参加者のアンケートには、「自然体験活動を通して、基礎的な知識や技術を十分に習得できた。」などあり、充実した研修となった。

〔課題〕

- ・出前講座の利用団体は主に土、日曜日に集中することが多く、利用調整することが多かった。
- ・ニュースポーツの道具の貸出しが増えてきたので、他の教材等の貸出しもできることを周知していきたい。
- ・自然体験活動研修会では、参加者が少ないので、幼稚園や保育園の教諭等に呼びかけ、自分たちでも自然体験活動ができることを周知していきたい。

在学少年宿泊指導者研修

〔事業目的及び概要〕

種差少年自然の家を利用する小・中学校及び特別支援学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

- 期日：4/25(木)～26(金)
- 場所：種差少年自然の家
- 対象：令和6年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員

〔事業内容〕

- 講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方
- 実習：活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法
- 演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認事項

〔成果〕

- ・今年度参加者は56名で、事情等により部分参加となったところもあったが、それぞれの事情をふまえて対応することができた。
- ・海活動での「いかだ遊び」「磯遊び」を通して海岸での避難場所と経路などの確認ができた。
- ・地震や火災等における「避難訓練」を通して、避難の仕方や経路などの確認ができた。

〔課題〕

- ・1泊2日の事業であるが、参加者からは「校内事情から1日行事にしてほしい。」との願いがあるものの、宿泊学習は、こどもの健康・安全に関わることなので、了承を得るようにしたい。
- ・同一利用校同士の擦り合わせに時間がかかるので、簡略化していきたい。
- ・宿泊学習の担当者が参加しない場合が多いので、参加できるように学校側をお願いしていきたい。

親子で学ぶ防災キャンプ事業 185千円

〔事業目的及び概要〕

種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害時における実践的な防災力・減災力を育むことを目的として、小・中学生とその家族及び小・中学校の教員を対象に行う研修事業である。

〔事業内容〕

事業名	期日	対象	参加者数	内容
親子の絆「防災キャンプ」	9/21(土)～22(日)	幼・小・中学生と保護者、市立公民館長	82名	・人命救助システムについて ・防災講話 ・テント設営 ・蒸しパン作り ・炊き出し体験 ・救命入門コース講習会

〔成果〕

- ・参加者を3年生以上としたら、防災講話など防災に関する知識・理解が深まり、より大人向けの充実した内容となった。
- ・火を使わないのでできる「かんたん蒸しパン作り」は、参加者に好評であった。
- ・参加者のアンケートに、「防災として常備するものなど参考になった。」などの感想があり、好評だった。

〔課題〕

- ・知らない家族同士のために、夜の避難所ならではのアクティビティとしてゲーム的な内容を取り入れるべきだった。
- ・多くの防災士を講師として招聘し、それぞれ防災に関する活動プログラムを担当させることにより、より防災に関する理解が深まると思われる。
- ・館内だけの活動プログラムであるので、津波を想定し、海岸から避難行動など実体験をさせていきたい。

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

県生涯学習課

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P45 (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

若者の社会参加促進事業 688 千円

[事業目的及び概要]

不登校が続いている高校生や、ひきこもり・ニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、ボランティア・就労体験や自然体験活動を実施する事業である。

[事業内容]

不登校が続いている高校生や、ひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者を対象に、自然体験・交流塾を、種差少年自然の家及び梵珠少年自然の家にて実施した。

(1) 自然体験・交流塾

ア 第1回【体験活動を通じた交流会】

○期日：[梵珠会場] 7/6(土) 開催中止 [種差会場] 7/20(土) 33名

○場所：県立梵珠少年自然の家、県立種差少年自然の家

○内容：野外炊事、創作活動 等

イ 第2回【自然体験活動】

○期日：[梵珠会場] 9/14(土) 開催中止 [種差会場] 9/28(土) 32名

○場所：県立梵珠少年自然の家、県立種差少年自然の家

○内容：自然体験活動、創作活動 等

ウ 第3回【ボランティア・就労体験】

○期日：[梵珠会場] 1/25(土) 6名 [種差会場] 2/15(土) 20名

○場所：県立梵珠少年自然の家、県立種差少年自然の家

○内容：ボランティア・就労体験、創作活動 等

(2) 自然体験・交流塾協力団体等連絡会議

会場ごとに、第1回自然体験・交流塾開催前と第3回自然体験・交流塾終了後、支援団体等により参加者の情報共有をするとともに、成果と課題、活動内容等について話し合った。

[成果]

- ・自然体験活動等を通じて、参加者同士やボランティアとの交流が盛んに行われ、参加者の満足度も高かった。
- ・自然の家や協力団体の担当職員との適切な情報交換により、参加者のニーズに合わせたプログラムを提供することができた。

[課題]

- ・この取組を必要とする県民に届くような周知を行う上で、さらに新規協力団体への直接的な周知活動が必要である。
- ・大学生や一般のボランティアの確保が課題である。

県総合社会教育センター

パワフルAOMORI! 創造塾 1,050 千円

[事業目的及び概要]

地域活動に係る潜在的な人財を掘り起こし、地域を担う人財を育成するとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的として、講義・演習や企画・

運営をする事業である。

【事業内容】

(1) 講座内容

回	期日	内容	
		ベーシックコース	アクティブコース
1	7/27 (土)	【開講式、オリエンテーション】 【講義・演習】 「地域活動って何?～そして自分の出来ること～」 講師 NPO法人ACTY 理事長 株式会社ACプロモート 代表取締役 町田 直子	
2	8/24 (土) 8/25 (日)	【講義・演習】 「海猫ふれんずと考える地域活動・地域づくり」 講師 海猫ふれんず 小田桐 咲 平沼 日菜子 【実践活動】 地域活動の企画・準備	【講義・演習】 「地域活動～具体的に動くために必要なこと～」 講師 町田 直子 【実践活動】 アクションプランづくり
3	9/28 (土)	【講義・演習】 「好きな場所で好きなことをする」 講師 つるた街プロジェクト 代表 岡 詩子 【実践活動】 地域活動の企画・準備	【実践活動】 アクションプランづくり
実践活動	10/5 (土)	【実践活動】 生涯学習フェアでの企画運営	【実践活動】 生涯学習フェアでの企画運営補助
4	11/16 (土)	【交流会】 「パワフル交流会」 【演習】 「アクションプラン発表会に向けて」	
5	12/7 (土)	【発表】 「アクションプラン発表会」 講評者 町田 直子 【閉講式】	

(2) 場所

県総合社会教育センター

(3) 参加者

塾生 12名(ベーシックコース7名、アクティブコース5名)

内訳：(年代別) 20代7名、30代3名、40代1名、60代1名

(地域別) 東青地域6名、中南地域1名、上北地域2名、三八地域3名

(職種別) 公務員8名、会社員3名、大学生1名

【成果】

- ・幅広い年代、各地域、様々な職種の参加によって、地域活動に係る潜在的な人財を掘り起こし、人材相互のネットワーク形成を促進することができた。
- ・2つのコースを設け、参加者の地域活動への関わり方に応じた講義・演習等を行うことによって、地域活動に多様な側面から関わる人財を育成することができた。

【課題】

- ・座学が多く実際の地域活動について体感することがないため、地域活動が実際に行われている場所を訪れ、地域課題や解決策等を関係者から具体的に聞く必要がある。
- ・参加者のネットワークが各コースで形成されていたため、参加者全員が共に学べる講座内容にし、参加者全体のネットワークが形成されるようにする必要がある。

地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業 801千円

〔事業目的及び概要〕

企業・NPO・各種団体・地域住民等の関係者が、学校において行われるキャリア教育について相互に理解を深めることを目的として、キャリア教育が推進されるための環境整備を進める事業である。

〔事業内容〕

- (1) 学校と地域・企業等をつなぐキャリア教育研修会
 - ア 期日・場所：中南地区 11/28(木) 大鰐町立大鰐中学校 受講者 22名
三八地区 7/22(月) 八戸市立長者中学校 受講者 36名
 - イ 対象：企業・NPO・各種団体・地域住民(P T A含む)、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)等
※学校関係者(市町村教育委員会、近隣学校の教職員等)も参加可
 - ウ 講師：認定NPO法人ハーベスト 代表理事 山崎 賢治
- (2) 地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム
 - ア 期日：10/25(金)
 - イ 場所：県総合社会教育センター
 - ウ 対象：企業・NPO・各種団体・地域住民、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)等
 - エ 内容：開会行事(あおりキャリア教育応援企業表彰含む)、講演、意見交換会
 - オ 講師：一般社団法人未来の大人応援プロジェクト 代表理事 岸川 政之
 - カ 参加者 58名
- (3) 「我が社は学校教育サポーター」の運営全般
 - ア 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営
 - (ア)登録企業から報告された令和5年度実績集計結果(令和7年2月調査まとめ)
出前授業：1,319件、職場見学：763件、職場体験・インターンシップ：947件、
その他：147件
 - (イ)登録企業数：728社(令和7年2月現在)
 - イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録 25社
 - ウ 学校からの依頼に対する仲介 15件

〔成果〕

- ・学校、地域コーディネーター、各地区プラットフォーム実行委員会、県総合社会教育センターが連携・協力することで、地域の人財を発掘することができ、こどもたちの郷土愛や地域愛を育むキャリア教育の実践例を提案することができた。
- ・キャリア教育支援に携わっている企業や地域側の思いを共有することにより、地域と学校がどのようにつながり、どのようなキャリア教育を推進していく必要があるのかを考える機会になった。
- ・県内の児童生徒に各企業種の魅力を伝え将来を見据えた人財の確保を目的として、「我が社は学校教育サポーター」に登録しキャリア教育支援に協力したいという新規登録企業が増えた。

〔課題〕

- ・キャリア教育の意義や役割について多くの県民に知ってもらうために、研修会やフォーラムの周知について、どこにどのように周知していくのか工夫が必要。
- ・昨年度より、企業等自身がいつでも登録情報を変更できるようにした新システムを構築した。しかし、期日までの登録情報更新がない企業にはメールで再度更新を促したり、電話で直接企業に連絡したり等の業務が増えた。新システムに企業が慣れるまで時間が必要である。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 619千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上を目的として、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人財育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

[事業内容]

- (1) センター研修(定員：各回 30 名程度)
 ベーシック研修
 〈新任職員想定〉

【基礎研修】

※A、B 日程共に同内容

開催日時	A 日程 5/28(火) 10:00~15:00 B 日程 9/3 (火) 10:00~15:00
会 場	県総合社会教育センター 第1研修室
受講形態	会場受講及びアーカイブで後日視聴(講義のみ)
内 容	【講義】「いま、生涯学習・社会教育関係職員に求められること」 【演習】「『熟議』を体験してみよう」～発表しない、まとめない!? えっ!?～ 講師：秋田県生涯学習センター 主査(兼)社会教育主事 皆川 雅仁

スキルアップ研修

〈中堅職員・管理職等想定〉

【スキルアップ研修1】 [総論的内容]

開催日時	8/23(金) 10:00~15:00
会 場	県総合社会教育センター 第1研修室
受講形態	会場参集及びアーカイブで後日視聴(講義のみ)
内 容	【講義】 「北海道北広島市の社会教育行政と地域づくりマネジメント」 【演習】 「チームビルディングのための合意形成」 ～チームコミュニケーションのトレーニング～ 講師：北海道北広島市教育委員会 教育部長 吉田 智樹

【スキルアップ研修2】 [実務的内容] (選択制)

※1~3 回目共に同内容

開催日時	7/12(金) 10:30~15:30(開会式、説明等 10:30~10:40) (1 回目 10:40~11:50 2 回目 13:00~14:10 3 回目 14:20~15:30)
会 場	県総合社会教育センター 各研修室
受講形態	会場受講
内 容	【講義・演習】 テーマ「実践演習! 講座の新たな企画・運営のヒント」 ～講座のマンネリ化対策の秘訣とは～ 【選択講座】 ※1 講座から最大 3 講座まで、また、1 回目から 3 回目の希望する時間帯 で受講可能 ア 「ICT 活用に関する講座」 ～Google フォームのアンケート活用法 他～ 講師：岩手県生涯学習推進センター 社会教育主事 高橋 啓 イ 「青少年教育に関する講座」 ～地域資源を活かしてマンネリ解消! ワンポイントアドバイス～ 講師：国立青少年教育振興機構 青少年教育研究センター 企画室長 樋口 拓 ウ 「成人教育(高齢者対象)に関する講座」 ～アクティブシニアが輝くためのヒント～ 講師：山形県生涯学習センター 学習振興部主幹(兼)部長補佐 岡崎 和貴

【取組実績】

研修名		会場受講者（名）	アーカイブ（名）
基礎研修	A 日程	15	15
	B 日程	9	10
スキルアップ研修 1		11	11
スキルアップ研修 2	ICT 活用	17	
	青少年教育	21	
	成人教育	19	

【成果】

- ・新任職員と中堅職員・管理職等想定 of 講座を設定したことから、より対象者のニーズに合った内容で研修を提供することができた。
- ・令和5年度のアンケート（任意）の結果をもとにテーマを設定したことで、市町村行政職員の会場受講者数は増加した。また、これに伴い、研修内容や業務に関する相談も増加した。

【課題】

- ・市町村行政職員の研修内容について、ニーズの把握や要望の検討をさらに進め、業務に役立つ研修講座を提供していく必要がある。

(2) 地区研修

※各地区全て会場参集で開催

	実施日時	場所	内容	受講者数 (名)
東青	5/13(月) 13:00～ 15:00	県総合社会 教育センター	【講義・演習】「デジタル・ディバイド(情報格差)解消に向けた企画運営～公式アカウント等を活用した地域住民への情報配信～」 講師：エイチピースタイリング 代表 高森 三樹	23
西北	9/24(火) 13:30～ 16:10	中泊町総合 文化センター 「パルナス」	【講義・演習】「出番です！こどもまんなかの地域づくり、子育て支援」 講師：NPO法人子育てひろば全国協議会 理事長 認定NPO法人びーのびーの 理事長 奥山 千鶴子	22
中南	7/24(水) 13:30～ 15:30	黒石公民館 (旧黒石市民 文化会館)	【講義・演習】「地域と防災」 講師：一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと 代表理事 小山内 世喜子	38
上北	5/16(木) 13:00～ 15:00	野辺地町 中央公民館	【講義・演習】 「持続可能な地域の活性化、そのためのつながりづくりと人づくり～社会教育の役割～」 講師：いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹	53
下北	9/19(木) 13:30～ 16:00	むつ合同庁舎	【講義・演習】 「『持続可能な地域づくり』をするための人財の育成」 講師：岩手県教育委員会教育委員 新妻 二男	21
三八	9/27(金) 13:30～ 15:40	五戸町立 公民館	【講義】 「地域を活性化させるためのつながりづくり」 講師：弘前大学教育学部 准教授 越村 康英	28

[成果]

- ・各地区の担当者や講師と打合せを綿密に行い、各地区のニーズに合った形で、地域課題の把握と課題解決に向けた研修を実施することができた。
- ・令和6年度は、各地区での研修をすべて会場参集形式で実施し、オンライン配信は行わなかった。オンライン配信の取り止めにより生じた時間を、演習時間の確保などに充てることができ、講座内容の質の向上につなげることができた。

[課題]

- ・各地区によって研修の目的や対象者が異なるため、各地区のニーズや課題を担当者と情報共有し、相談しながら、その地区に適した研修の内容を企画・立案する必要がある。

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障がい者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
- イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

県生涯学習課

障がい者の生涯学習支援事業 1,014 千円

〔事業目的及び概要〕

特別支援学校卒業生の自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団学習や趣味の講座、障がい者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 社会参加学習

学校名	回数	時間	参加者数	主な内容
県立青森第二養護学校	6	16	237 名	運動会参加、レクリエーション、ボウリング教室、学習発表会見学、ニュースポーツ体験、会報の発行
県立青森若葉養護学校	2	8	25 名	「開校 30 周年記念オブジェづくり」、体験を広げる校外学習(入級生、職員、地域の方との交流)
県立青森第一高等養護学校	1	2.5	56 名	めいせい祭参加(在校生、卒業生、保護者、職員との交流)
県立青森第二高等養護学校	3	12	206 名	情報交換、レクリエーション、学校祭参加(展示及び模擬店見学)、同窓生の集い
県立盲学校	1	4	4 名	学校祭参加(発表の観賞、運営の手伝い)
県立青森豊学校	1	2	55 名	家族レクリエーション
県立浪岡養護学校	2	4	9 名	同窓会、二十歳を祝う会
県立弘前第一養護学校	2	5	60 名	ひまわりの会総会参加、高等部祭参観(会員相互の親睦及び将来の会員との交流)
県立弘前第二養護学校	1	1	40 名	二十歳を祝う会
県立八戸第一養護学校	3	12	70 名	二十歳を祝う会、高等部祭見学
県立八戸第二養護学校	1	4	102 名	卒業生スポーツ交流
県立八戸盲学校	1	4	6 名	箏教室
県立森田養護学校	2	10	58 名	社会参加学習、森養祭参加
県立黒石養護学校	2	6	75 名	映画観賞、学習発表会
県立七戸養護学校	3	10	106 名	二十歳を祝う会、同窓会バス旅行
県立むつ養護学校	4	10	388 名	卒業生のお知らせ、卒業生スポーツ交流会
県立八戸高等支援学校	1	2.5	60 名	同窓会
合計	延べ回数	延べ時間	参加者数合計	1,557 名
	36 回	113 時間		

(2) スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/7(日)	県立森田養護学校	23 名	ボッチャ教室
7/7(日)	県立黒石養護学校	40 名	レクリエーション的な運動
7/28(日)	県立青森第一高等養護学校	25 名	ボッチャ教室
9/8(日)	県立八戸盲学校	9 名	卓球バレー
9/16(月)	県立青森豊学校	25 名	レクリエーション
10/20(日)	県立弘前第一養護学校	35 名	ボッチャ、フライングディスク
12/14(土)	県立青森第二養護学校	32 名	スポーツ体験会
合計	開催回数	参加者数合計	189 名
	7 回		

〔成果〕

- ・活動を通して、他の入級生やその家族、教師等とコミュニケーションを図ることで、世代を超えた

参加者の親睦を深めるとともに、参加者の学校に対する所属感を高めることができた。

- ・卒業生の保護者からは「学校を卒業してから運動をする機会がなかったため、とても良かった。」との感想があり、学校卒業後の余暇活動の充実に貢献することができた。

【課題】

- ・制作活動等、参加者によっては活動を行うことが難しい内容もあるので、事前の案内で活動内容についてしっかり周知する必要がある。
- ・世代の異なる参加者同士が、互いに気を遣う場面が見られることもあるので、活動を始める前に簡単なアイスブレイクを行うなど、人間関係づくりがスムーズに進むよう配慮が必要である。

県総合社会教育センター

学習情報の収集・提供事業 8,155 千円

【事業目的及び概要】

県民の生涯学習活動を促進するために必要とされる各種情報を収集し、一覧をインターネットにより県民へ提供するほか、いつでも、どこでも、インターネットで手軽に学べる e ラーニング教材の配信及び管理を行うとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理し、ICT 講座等を実施できる環境を整備する事業である。

【事業内容】

- (1) 学習情報の収集・提供
4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供
- (2) インターネットによる e ラーニング学習教材の配信
ア 元気青森人 PowerUp コンテンツ
イ あおもり学インターネット講座
ウ あおもり子育てネット
- (3) サーバ・パソコン機器等維持管理
学習情報提供に係るサーバ・パソコン機器及び実習用機器の整備

【成果】

- ・県民の生涯学習活動を支援するため、学習情報提供サイト「ありすネット」を運用し、インターネットを通して広く県民へ様々な情報提供を行った。
登録データ件数は計 5,602 件(学習機会情報 2,610 件、指導者人材情報 141 件、団体・サークル情報 145 件、視聴覚教材情報 2,706 件)、ありすネットへのアクセス回数は計 2,486 回(学習機会情報 1,107 回、指導者人材情報 322 回、団体・サークル情報 693 回、視聴覚教材情報 364 回)。
なお、視聴覚教材情報の登録データ件数については、令和 5 年度末の 16mm フィルム貸出終了及び棚卸による教材整備により減となっている。
- ・e ラーニング教材の配信による県民への学習機会の提供を行った。
配信数は、元気青森人 PowerUp コンテンツ計 92 本(はたらく心 92 本)、あおもり学インターネット講座計 21 本(あおもりエトセトラ 6 本、青森県の先人 1 本、青森県の山 7 本、わがふるさと 7 本)、あおもり子育てネット計 45 本。アクセス件数は、元気青森人 PowerUp コンテンツ 175 件、あおもり学インターネット講座 604 件、あおもり子育てネット 3,585 件。
- ・学習情報提供に係るサーバ・パソコン機器及び実習用機器の維持管理を行い、実習環境を整備した。

【課題】

- ・提供する学習情報や学習機会の更なる充実に加え、情報が県民に届くよう、周知に工夫が必要。
- ・インターネットでの情報検索が身近になった現代において、県民のニーズに合った学習情報提供の在り方を検討していく必要がある。

ボランティア関係機関職員養成講座 153 千円

【事業目的及び概要】

ボランティア関係者、実践活動者等の資質向上を目的とした対話・参加型の講座を開催し、本県の社会参加活動の推進及び充実を目指す事業である。

【事業内容】

- (1) 期日：7/17(水) 13:00~15:30
- (2) 場所：県総合社会教育センター

- (3) 対象：市町村の教育委員会及び首長部局職員、市町村社会福祉協議会職員、NPO、ボランティア関係団体、ボランティアに関心のある一般県民等
- (4) 受講者数：会場受講 37 名、オンライン受講 126 名 計 163 名
- (5) 事業内容
- ア 講義：「地域とともにはぐくむボランティア活動」
講師：十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子
- イ 事例発表：五所川原第一高等学校 教諭 三國 佑太
ボランティアサークル「麦の会」 代表 若木 政人

〔成果〕

- ・アンケート記述から「県内のボランティア活動についてよく学べた。自分が今何をすることができるのか、考えたいと思う。」「地域や今のニーズに合ったものを進めていく事が良いと分かりました。自分の満足で終わらず、相手の立場（気持ち）になって物事を考え、身の周りの小さなことから始めたいと思います。」等、今後のボランティア活動への意欲向上に繋がった。
- ・青森県社会福祉協議会と共同開催し、ハイブリット型の受講形態で実施したことにより、県内各地にサテライト会場ができ、広域学習ができた。

〔課題〕

- ・受講者の所属に偏りがあるため、各市町村教育委員会及びNPO活動支援担当課と連携し、NPO、ボランティア関係団体等の多岐に渡る所属の方々にも参加を促したい。
- ・サテライト会場ごとにオンラインの受信環境をより整えて受講していただけるよう、システムの設定方法等について、事前に説明する必要がある。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 645 千円

〔事業目的及び概要〕

16mm フィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともに、その活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚教材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 3 本
- (5) 視聴覚教材のデジタル化業務 263 本

〔成果〕

- ・16mm フィルムを初めとした保管映像資料の点検と、排架・台帳の整備を行った。また、青森県関係記録映像ビデオのデジタル化を継続して行い、県政番組（「県政の窓」ほか）についてはデジタル化が完了した。

〔課題〕

- ・今後は継続して、青森県関係資料を録映像としてデジタル化を行うと共に、保管・活用方法について検討していく必要がある。

あおもり県民カレッジ運営業務

〔事業目的及び概要〕

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) あおもり県民カレッジの運営全般
 - ア 学生募集
 - (ア) ポスター、チラシ(入学申込書)による募集
※募集チラシを更新、子どもカレッジコースの募集チラシを新たに作成し、各学校等に配布
 - (イ) イベント時にあおもり県民カレッジ(子どもカレッジ)コーナーを設置
 - (ウ) 各種講座・映画鑑賞会等の開催時に周知

(エ) 生涯学習情報誌「てのひら」、ホームページ等による周知

イ 学生対応

(ア) 入学受付(随時)

(イ) 学生数 29,303名(新規1,066名)

教養学習コース 26,157名

子どもカレッジコース 3,146名

(ウ) 単位認定サービス

認定証交付件数 211件(教養学習コース160件、子どもカレッジコース51件)

奨励賞交付件数 50件(教養学習コース25件、子どもカレッジコース25件)

ウ 学友会活動支援(中南地区及び三八地区)

エ あおもり県民カレッジ連携機関との連携・協力

(ア) 連携機関数：376機関(体験施設88か所を含む)

(イ) 連携機関連絡会議の開催

県民の生涯学習活動と社会参加活動の活性化に向け、6地区であおもり県民カレッジ連携機関の会議を開催し、地域キャンパス講座、生涯学習フェア、ボランティア活動支援等について意見交換するとともに、連携機関を含めた出席者相互の情報共有の場とする。

地区	日時(令和6年)	会場	参加機関数
東青	5月9日(木) 13:30~15:30	県総合社会教育センター4階第2多目的研修室	22
西北	5月8日(水) 13:30~15:30	五所川原合同庁舎1階C会議室	2
中南	5月15日(水) 13:30~15:30	弘前合同庁舎本館2階会議室	8
上北	5月13日(月) 13:30~15:30	上北教育事務所1階大会議室	9
下北	5月14日(火) 13:30~15:30	むつ合同庁舎中会議室	3
三八	5月10日(金) 13:30~15:30	八戸合同庁舎1階第1会議室	4

(ウ) 教育事務所訪問により、あおもり県民カレッジの各地区の状況を説明

(2) 普及啓発事業

ア 生涯学習フェアの開催(10/5(土))

参加者：550名

主な内容 オープニング

菊池 高晴(あおもり県民カレッジ三八学友会)によるサククス演奏

あおもり県民カレッジ公開授業「私にとっての学びとは」

森 岩樹(キャリアコンサルタント) / 中川 隆浩(下北を知る会会長) /

類家 順子(八戸あおば高等学院学院長)

あおもり県民カレッジ認定証交付式

記念講演「やさしい言葉の教室へ、ようこそ」講師：和合 亮一(詩人)

学びと体験のひろば(ものづくり体験)

古本交換会

食彩ひろば

イ こども向けイベント

(ア) 夏のこどもまなびフェスタの開催(7/27(土))

参加者：450名

主な内容 オープニング(ピアノ教室 dolce の演奏)

「みんなが先生！」ゼミナール(7組)

世界でたった一つの宝物をつくろう！

物語を楽しもう！

仲間と一緒に体を動かそう！

(イ) 冬のこどもまなびフェスタの開催(2/15(土))

参加者：235名

主な内容 いなばみどりの出前ラジオ局

「みんなが先生！」ゼミナール

SDGs（おもちゃ病院／絵本・児童書交換会）

体験・遊び（中学生と学んで遊ぼう／子どもカレッジの部屋 他）

ウ 県民カレッジ&生涯学習情報誌「てのひら」の作成・発行(年4回)

エ 映画鑑賞会開催(隔月)

オ ホームページ <https://www.manabi-aomori.com>、フェイスブック、インスタグラムによる情報提供

(3) 学習相談・学習情報提供事業

ア 学習相談の実施

窓口、電話、FAX、郵便、メール等による学習相談の受付 相談件数：59件

イ 学習機会情報の収集及び提供

青森県学習情報提供サイト(ありすネット)への学習情報の登録 登録件数：2,362件

ウ マスメディア活用による情報提供

テレビ、ラジオ、新聞を通して、講座、イベント情報や展示内容について告知

(4) 学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座(県内6地区)の開催

開催数：計49回(東青11回、西北13回、中南7回、上北6回、下北6回、三八6回)

受講者数：延べ1,687名

(5) 社会参加活動支援

ア ボランティア講師による自主講座の開催 講座数：94講座、受講者数：延べ676名

講師登録数：129名

イ まなびサポーター(各種講座やイベントにおける運営ボランティア)の登録・活動奨励

登録者数35名(内高校生15名)

延べ活動者数：109名

ウ イベント時における高校生・中学生ボランティアの活動奨励

延べ活動者数：129名

ボランティア活動証明書の発行

[成果]

- ・県民カレッジについては、イベントや主催講座等を通じて周知と啓発を図った。
- ・県民カレッジの入学、単位認定手続きについて、オンラインによる手続きができるようにした。
- ・カレッジ学生数は毎年増加しているものの、実態にそぐわない側面も見受けられるため、昨年度に引き続き高齢者（98歳以上）の学生に継続意思調査を実施した。
- ・学習機会提供事業では、地域キャンパス講座、ボランティア講師による自主講座等の開催数、受講者数が、コロナ禍による落ち込みから回復傾向にある。

[課題]

- ・県民カレッジの単位認定者数（実数）を増やすよう引き続き努める。
- ・地域キャンパス講座、自主事業等については、社会的ニーズを踏まえた内容としていく。

インフォメーションプラザありすの運営

[事業目的及び概要]

インフォメーションプラザありす(学習情報サービス室)は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービスの業務を行っている。

[事業内容及び結果]

(1) 窓口対応時間 9:00～19:00

(2) 視聴覚教材貸出サービス

(3) ポスター、チラシの配架

(4) 学習成果の展示

ア 階段ギャラリー、コリドー展示室、2階展示ギャラリー「画伯のたまご」、ギャラリーありす、1階ロビー等を活用して、多様な作品を展示した。

イ 季節ごとの館内装飾と展示

[成果]

- ・インフォメーションプラザありす、ロビーのラーニングスペース、自主学習室、ほのぼのルームの各利用者数は、コロナ禍による落ち込みからやや回復傾向にある。個人の学習スペースとして定着

してきているものと考えられる。

- ・展示スペースについては、所内各スペースの展示内容を区分し、それぞれに特徴ある作品を展示するようにしている。ギャラリーありすは、ボランティア講師による自主講座の講師や受講者の作品を展示するなど、学習成果を生かす場ともしている。また、1階ロビーに、地域キャンパス講座（東青地区）の紹介パネル展示など、時宜に応じた展示を行った。

[課題]

- ・引き続き適切な窓口対応、電話対応を心がけ、利用者数が増えるよう努める。
- ・定期的な展示替えにより来館者が楽しめる展示とする。

県立図書館

読書バリアフリー推進事業 1,328千円

[事業目的及び概要]

視覚障がい等さまざまな障がいのある方が図書館をより利用しやすい環境に整備することを目的として、大活字本やデージー図書等のアクセシブルな書籍の購入や読書バリアフリーのための機器・用具を整備する事業である。

[事業内容]

読書バリアフリー推進に係るアクセシブルな書籍や機器・用具等の整備

[成果]

- ・アクセシブルな書籍の購入及び新しい用具の整備
- ・関係団体への情報提供
- ・郵送貸出開始

[課題]

- ・図書館バリアフリーサービスの利用促進を図るため、より広く県民へ周知していく必要がある。

近代文学館 特別展開催事業 1,449千円

[事業目的及び概要]

文学に関心を寄せる方から普段文学に馴染みのない方まで、幅広い層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

[事業内容]

(1) 名称：特別展「作家とのりもの」

(2) 会期：7/13(土)～10/14(月・祝)

(3) 内容：展示、特別展イベントを実施する。

- 展示：本州最北端、三方を海に囲まれる青森は、昔から交通の要所として栄えてきた。これまでも多くの人々が船や鉄道、車など様々な乗り物に乗って青森を訪れ、時には更に北に向かいあるいは青森から旅立っていった。そういった地域柄もあってか、乗り物に関する文学作品を発表した青森の作家や、青森にゆかりのある乗り物が登場する文学作品も少なくなく、青森の作家・青森にゆかりのある乗り物に関する文学作品やエピソードについて、乗り物の模型や写真などを紹介した。

展示資料数：323点

- 特別展イベント：

特別展に関心をもってもらうことを目的として、イベントを開催。

ア あおもりのりもの写真展

内容：「あおもりのりもの」をテーマに、青森の高校生たちが撮った写真を展示。

日時：特別展開催期間常時

場所：近代文学館展示ギャラリー(企画展示室横)

[成果]

- ・模型や写真などを数多く展示し、こどもからお年寄りまで楽しめるよう工夫した結果、幅広い年齢層の来館につながった。
- ・イベントには24点の応募があり、展示を充実させるものとなった。

[課題]

- ・県内各地の幅広い世代の来館が定着するよう、魅力あるテーマの設定やイベントの計画を継続する。

近代文学館 企画展開催事業 646 千円**〔事業目的及び概要〕**

文学に関心を寄せる方から普段文学に馴染みのない方まで、幅広い層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を中心に展示・公開する企画展を開催する事業である。

〔事業内容〕

(1) 名称：企画展「あおもりの校歌」

(2) 会期：12/7(土)～ 3/23(日)

(3) 内容：展示、企画展イベントを実施する。

○展示：学校生活において誰もが歌う校歌は、その学校を象徴するものであり、学校や地域への帰属意識を高めると共に、学校への愛着や誇りを抱かせ、卒業後には懐かしさを感じさせる。そのような校歌の中には、学校関係者や地域の人々の思いを託された作家が作詞したものも少なくなく、青森にゆかりのある作家や著名な作家が作詞した校歌について、歌詞に込められた思いや作家と学校との結びつきが感じられる資料などを紹介した。

展示資料数：126 点

○企画展イベント：企画展と青森県の文学に関心を持ってもらうことを目的として、企画展のテーマに関連したイベントを開催。

ア あおり文学ゼミ

内容：講演「あおもりの校歌」

出品資料や展示内容などについて詳細に解説。

日時：12/22（日）14 時～15 時

場所：県立図書館研修室

参加者数：11 名

〔成果〕

- ・各学校等の協力を得て、校歌にかかわる貴重な資料を展示することができた。
- ・校歌歌詞を地域・校種ごとに分析したコーナー、校歌を試聴できるコーナーが来館者からの好評を得た。

〔課題〕

- ・県内各地の幅広い世代の来館が定着するよう、魅力あるテーマの設定やイベントの計画を継続する。

アウトリーチサービス推進事業 428 千円**〔事業目的及び概要〕**

心身に障がいがあるなどの事由により、図書館への来館が困難な者に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

○登録者数：19 名(うち新規登録者数 4 名)

○貸出：件数 120 件／冊数 766 点

〔成果〕

- ・県立図書館に直接来館することが難しい利用者に対して、サービスを提供することができた。

〔課題〕

- ・利用者が希望する資料が本館にない場合の対応が難しいことが課題となっている。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

県生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会) 1,022千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習振興法(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

〔事業内容〕

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

(2) 青森県生涯学習審議会

ア 第16期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(R4/10/19～R6/10/18)

○諮問：「障がい者の生涯学習の推進方策について」

○審議事項：1「障がい者の多様な学習活動の充実」

2「障がいの有無にかかわらず共に学ぶ場づくり」

3「障がい者の学びを推進するための基盤の整備」

○会議等の概要：第6回審議会 6/20(木) 答申案(素案)について

第7回審議会 7/24(水) 最終答申案について【書面開催】

答申書提出 8/20(火) 会長から県教育長へ答申書を提出

イ 第17期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(R6/10/19～R8/10/18)

○諮問：「ふるさと青森を愛し、誇りに思う人づくりに向けた生涯学習・社会教育における推進方策について」

○審議事項：1「公民館等の社会教育施設におけるこどもたちの継続的な地域学習の推進について」

2「こどもたちの主体的な地域活動の促進について」

3「地域に根付いた持続可能な取組にするための仕組みづくりについて」

○会議等の概要：第1回審議会 12/4(水) 諮問内容について

第2回審議会 1/23(木) 審議事項に関する現状や課題等について

〔成果〕

- ・第16期審議会では、県教育委員会からの諮問「障がい者の生涯学習の推進方策について」を受け、令和6年7月までに7回の会議及び委員による実地調査を行い、令和6年8月に答申書を県教育委員会に提出した。
- ・答申書では、「障がいのある人のニーズに応える生涯を通じた学習活動の充実」「障がいのある人の学びに対する社会全体の理解促進」「障がいのある人の生涯にわたる学びを支える体制の整備」について、具体的方策を提言することができた。

〔課題〕

- ・第17期審議会では、県教育委員会からの諮問「ふるさと青森を愛し、誇りに思う人づくりに向けた生涯学習・社会教育における推進方策について」を受け、審議を進めているところであり、今後、先進事例実地調査等の分析を踏まえ、提言をまとめていく必要がある。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業 697 千円

〔事業目的及び概要〕

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う。

〔事業内容及び結果〕

一般県民2,500人を対象にアンケート方式による調査を行い、その結果を分析し、報告書にまとめる。

○調査テーマ：「ふるさと青森を愛する心と行動に関する県民の意識調査」

○調査対象：県内在住の20代～70代の一般県民2,500人

○有効回答：878人(35.12%)

○顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、大学教授等に研究顧問を委嘱する。

弘前大学教育学部 准教授 越村 康英

八戸学院大学地域経営学部 准教授 井上 丹

○報告書：135部を印刷し関係機関に配布した。

〔成果〕

- ・地域活動に対する意識が低い層への対策としては、文化施設において意識が高い層と会話や交流ができる機会をつくり、さらに地域活動について理解できる時間、そして参加したいと思えるような広報活動が有効と考えられることがわかった。
- ・県教育委員会に期待する取組としては、様々な視点から地域の姿を捉えられる地域学習の機会や各地域の状況等に応じたオーダーメイド型の取組が求められることがわかった。

〔課題〕

- ・一般県民を対象とする調査では、調査対象者の抽出にあたり、住民基本台帳及び選挙人名簿抄本による作業を行うこととなる。その際、自治体によって対応が異なるため、できるだけ作業が煩雑にならないように工夫する必要がある。

青森県社会教育委員の会議運営 231 千円

〔事業目的及び概要〕

社会教育法第17条に基づき、本県社会教育の振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行う。

〔事業内容〕

(1) 青森県社会教育委員の会議

ア 第36期青森県社会教育委員

○委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務

○任期：2年(R4/10/19～R6/10/18)

○調査研究テーマ：「障がい者の生涯学習の推進方策について」

※青森県生涯学習審議会の審議テーマに基づき、必要に応じて調査研究を行う。

○会議等の概要

第3回青森県社会教育委員の会議 5/14(火) 第16期青森県生涯学習審議会答申の素案について

イ 第37期青森県社会教育委員

○委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務

○任期：2年(R6/10/19～R8/10/18)

○会議の概要

第1回青森県社会教育委員の会議 12/4(水) 議長・副議長選出

〔成果〕

- ・第36期社会教育委員の会議では、「障がい者の生涯学習の推進方策について」をテーマに答申素案について書面で審議を行い、表現方法について理解しやすくする観点で委員からの意見を得たことにより、第6回生涯学習審議会ですんなり審議を行うことができた。

〔課題〕

- ・第17期審議会では、県教育委員会からの諮問「ふるさと青森を愛し、誇りに思う人づくりに向けた生涯学習・社会教育における推進方策について」を受け、審議を進めているところであり、今後、必要に応じて調査研究を行う必要がある。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成 250 千円

〔事業目的及び概要〕

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

〔事業内容〕

- (1) 市町村の社会教育行政調査
- (2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査
- (3) 「令和6年度青森県の社会教育行政」の作成配布(550部作成)

〔成果〕

- ・県及び市町村における社会教育事業の概要・実績、社会教育行政の現状等について取りまとめ、社会教育行政関係者に広く周知した。

〔課題〕

- ・青森県の社会教育行政の内容について、読み手がわかりやすくなるよう記載量や記載方法について改善を続けることが必要である。

社会教育主事有資格者育成派遣事業 643 千円

〔事業目的及び概要〕

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

〔事業内容〕

- 派遣研修：社会教育主事講習(岩手大学)
- 研修期間：7/16(火)～8/9(金)

〔成果〕

- ・中学校教員、教育事務所社会教育担当職員の計3名が新たに講習を修了し、有資格者となった。

〔課題〕

- ・小・中学校教員の社会教育主事の職務に対する認知度が低く、受講希望者が少ない。

生涯学習専門講座派遣事業 184 千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

〔事業内容〕

- (1) 社会教育主事専門講座
 - (2) 地域教育力を高めるボランティアセミナー
- ※(1)、(2)ともに国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催。受講者なし。

〔成果〕

- ・なし

〔課題〕

- ・令和6年度は受講者がなかったが、今後も専門的教育職員育成のため、引き続き中央研修への派遣を実施し、最新の知見が得られるよう努める。

社会教育主事等一般研修 161 千円

〔事業目的及び概要〕

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修や社会教育関係職員同士が情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

〔事業内容〕

- 合同学習会の実施
- | | | |
|-----|---------|-------------|
| 第1回 | 4/22(月) | 県総合社会教育センター |
| 第2回 | 9/30(月) | 県総合社会教育センター |
| 第3回 | 2/7(金) | 県総合社会教育センター |

〔成果〕

- ・担当事業についての情報交換及び講師による講義演習を通じて、施策や今後の目指す方向性について

て職員間で共通理解を図ることができた。

[課題]

- ・第3回の日程調整が難しいため、内容の精選や開催時期を変更する等見直しが必要である。

在学青少年育成費補助事業 359 千円

[事業目的及び概要]

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

[事業内容]

主に東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業に対する助成。

期日	場 所	参加生徒数	内 容
9/12(木)	県立黒石高等学校	519 名	演題 「人は後ろ向きに未来に入って行く！ ～今を、そして未来を変える ために!～」
9/13(金)	県立弘前南高等学校	626 名	講師 国士舘大学 学長 佐藤 圭一
10/22(火)	県立大湊高等学校	365 名	演題 「一緒にスウィングしましょ。 ～たとえ、ささやかな存在でも、心 の振り子を揺さぶり動かしたい～」
	県立むつ工業高等学校	270 名	講師 株式会社スウィング 代表取締役 橋本 洋子

[成果]

- ・本県にゆかりのある著名な講師による、職業観や人生観等をテーマとする講演は、高校生にとって、これから直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくための多くの示唆を与える機会となっている。

[課題]

- ・毎年3地区6校で開催しているところだが、今年度は2地区4校での開催となったため、機会を最大限提供できるよう団体へ働きかけていく。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P45 (1)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

県総合社会教育センター

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲)

(P75 (2)活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成に掲載)

ボランティア関係機関職員養成講座(再掲)

(P80 (3)生涯を通じた学びと社会参加の推進に掲載)

県立図書館

県立図書館資料整備 65,226 千円

[事業目的及び概要]

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的に、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

なお、令和3年度から電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入している。

6年度事業の実績

[事業内容及び結果]

受入資料数(R6/4/1～R7/3/31)

区分	資料整備費	受入資料数
県立図書館	60,559 千円	22,188 冊
(うち電子書籍)	(5,280 千円)	(619 冊)
近代文学館	4,667 千円	6,211 冊
合計	65,226 千円	28,399 冊

市町村立図書館等職員研修事業 76 千円

[事業目的及び概要]

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を目的として、初任者研修、基本研修及び学校図書館支援研修を実施する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 初任者研修

ア 開催日	7/17(水)～7/18(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	1日目：市町村立図書館等職員33名、学校図書館業務担当職員7名、その他4名 2日目：市町村立図書館等職員33名、学校図書館業務担当職員5名、その他4名
オ 内容	図書館の役割や基本的なサービス等を理解するための研修 「講話、関係法規、公共図書館の現状と課題・県立図書館の読書バリアフリーの取組、学校図書館の現状と課題、資料管理、児童サービス、グループワーク」

(2) 学校図書館支援研修

ア 開催日	10/30(水)
イ 場所	県総合学校教育センター
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員35名、学校図書館業務担当職員19名、その他18名
オ 内容	テーマ「教育現場で学校図書館が活用されるために」

(3) 基本研修

ア 開催日	11/14(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員48名、学校図書館業務担当職員8名、その他1名
オ 内容	テーマ「国立国会図書館における複写サービスと著作権」
カ 講師	国立国会図書館 利用者サービス部複写課 米井 大貴

[成果]

- ・初任者研修では、新たに図書館に勤務することとなった市町村職員等が、図書館の業務やサービスの基本的なことについて学び、各館での業務に必要な知識・技術習得の機会となった。
- ・基本研修では、国立国会図書館の講師派遣型研修を活用し、複写サービスと著作権の関係を中心とした講義と演習を行い、基礎的な知識を学ぶ研修機会となった。

[課題]

- ・学校図書館支援研修では、学校図書館シンポジウムと同日開催とし、参加者の利便性を図ったが、休憩等の時間設定に配慮が必要であった。